

門 通  
號 668  
卷 2



高松太平記

○ 卷之五

毒賢おてまど保まする 離あれる

古之ありて強と勇は却て立後れる

老長化國より来りて老云となり

鼻れかゝる様鼻れわる様とあする

莊子が渾純のまをりなり

竹りよ孫きよと好むは却て仇あする

猿猴が月とらると子なすれかられる

明治三六年  
九月十一日  
購

借の董宣法とてなる事

死をせしむる法を疾く若くはとるなり  
公の電電一も乳母れ子とてとるも  
科わらふかめてハゆくと内せしむ

高名太平記 卷之五

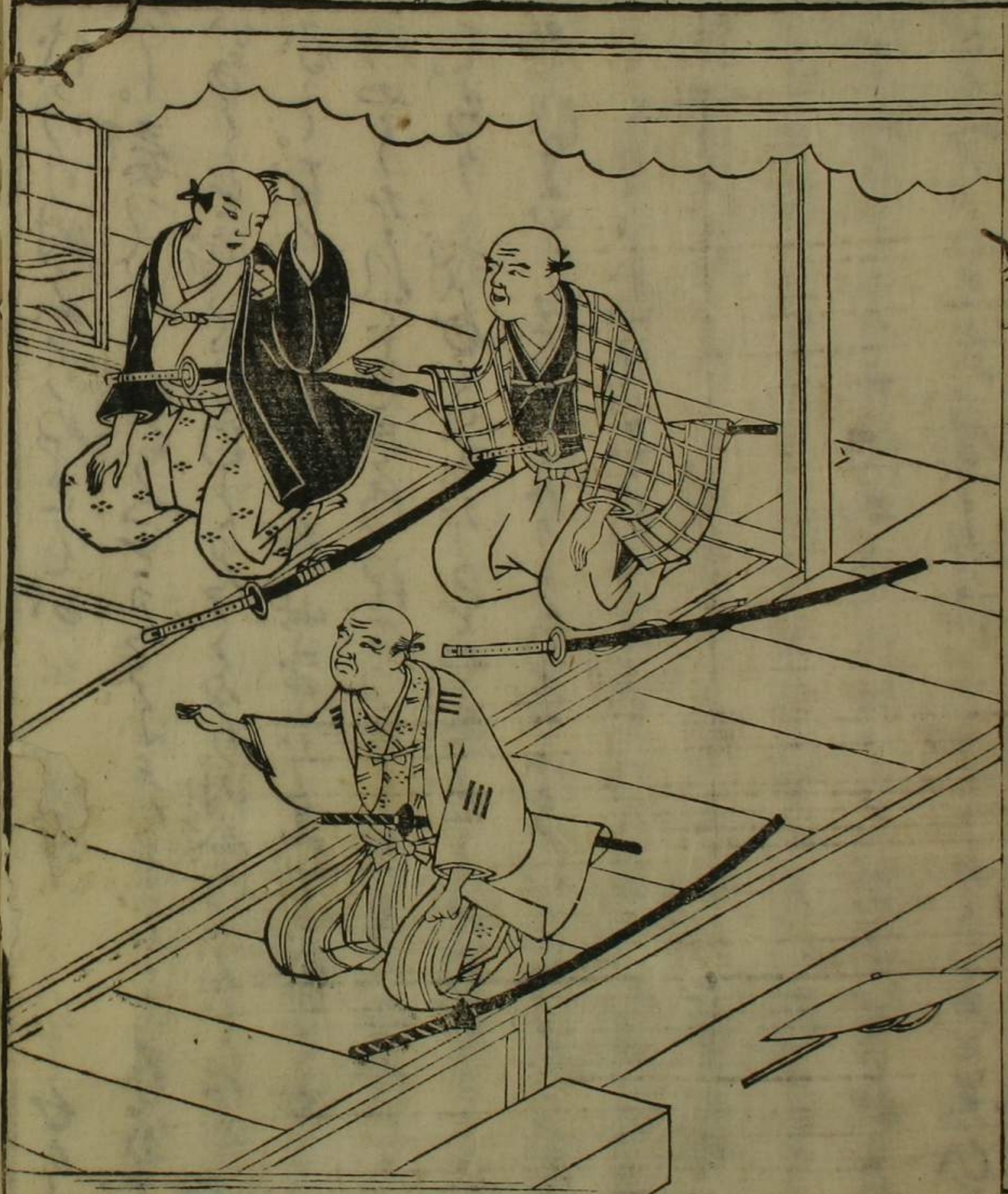
○妻賢才女難あり事

今も昔も上り下りし事ありき。世のなきものありぬ  
うし仕宿も人かたより遊業も他もなきありけり。と慢  
して。我事もつらそも。備事とてかたそと。我事とてかたそと。い  
て。邪あり。我は媚をなす。かたの六切あり。とて。福とて  
して。老後のさかひと号し。賢才あり。とて。法廉かた人々  
我非と非もかんち。あつた。いさる。あつた。いさる。あつた。いさる。あつた。いさる。  
あつた。いさる。あつた。いさる。あつた。いさる。あつた。いさる。あつた。いさる。  
あつた。いさる。あつた。いさる。あつた。いさる。あつた。いさる。あつた。いさる。  
あつた。いさる。あつた。いさる。あつた。いさる。あつた。いさる。あつた。いさる。  
あつた。いさる。あつた。いさる。あつた。いさる。あつた。いさる。あつた。いさる。  
あつた。いさる。あつた。いさる。あつた。いさる。あつた。いさる。あつた。いさる。  
あつた。いさる。あつた。いさる。あつた。いさる。あつた。いさる。あつた。いさる。









室<sup>や</sup>の<sup>は</sup>湯<sup>は</sup>方<sup>た</sup>全<sup>ん</sup>と<sup>お</sup>して<sup>。目</sup>と<sup>よ</sup>る<sup>は</sup>は  
 ひ<sup>ら</sup>の<sup>風</sup>像<sup>と</sup>に<sup>く</sup>。氏<sup>い</sup>家<sup>け</sup>の<sup>者</sup>は<sup>味</sup>く<sup>し</sup>て<sup>ら</sup>る<sup>た</sup>  
 し<sup>か</sup>ま<sup>と</sup>と<sup>志</sup>れ<sup>を</sup>あ<sup>ま</sup>事<sup>。久</sup>ま<sup>く</sup>と<sup>款</sup>く<sup>し</sup>て<sup>を</sup>せん  
 し<sup>の</sup>使<sup>は</sup>は<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>由<sup>ゆ</sup>成<sup>が</sup>衰<sup>か</sup>との<sup>弁</sup>と<sup>を</sup>す<sup>り</sup>て<sup>は</sup>さ<sup>り</sup>か<sup>ら</sup>ふ<sup>。これ</sup>と<sup>あ</sup>と  
 ち<sup>く</sup>ま<sup>し</sup>て<sup>こ</sup>の<sup>世</sup>の<sup>治</sup>ま<sup>ら</sup>し<sup>の</sup>時<sup>を</sup>又<sup>と</sup>ち<sup>り</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>事</sup>は<sup>又</sup>  
 と<sup>あ</sup>る<sup>。紙</sup>の<sup>び</sup>ら<sup>。乃</sup>を<sup>ま</sup>を<sup>く</sup>。倉<sup>り</sup>に<sup>道</sup>は<sup>さ</sup>ら<sup>く</sup>こ<sup>の</sup>さ<sup>ら</sup>ふ<sup>。こ</sup>  
 の<sup>公</sup>さ<sup>ら</sup>し<sup>ゆ</sup>す<sup>は</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>。今<sup>ま</sup>も<sup>の</sup>以<sup>は</sup>に<sup>腹</sup>の<sup>痛</sup>と<sup>せ</sup>す<sup>。は</sup>  
 け<sup>ん</sup>と<sup>い</sup>て<sup>命</sup>と<sup>さ</sup>す<sup>。め</sup>せ<sup>ま</sup>れ<sup>事</sup>の<sup>ひ</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>し</sup>極<sup>つ</sup>  
 た<sup>ら</sup>み<sup>と</sup>と<sup>て</sup>。せ<sup>り</sup>て<sup>を</sup>四<sup>ん</sup>よ<sup>あ</sup>ら<sup>し</sup>め<sup>し</sup>付<sup>く</sup>被<sup>し</sup>と<sup>や</sup>  
 後<sup>よ</sup>ら<sup>し</sup>て<sup>ま</sup>み<sup>と</sup>。は<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>。也<sup>。昔</sup>之<sup>と</sup>ら<sup>や</sup>し<sup>。い</sup>て<sup>い</sup>  
 殺<sup>つ</sup>こ<sup>。え</sup>ん<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>りの<sup>肉</sup>。我<sup>が</sup>命<sup>と</sup>且<sup>々</sup>あ<sup>ら</sup>り<sup>て</sup>い<sup>ひ</sup>  
 る<sup>。い</sup>ら<sup>る</sup>ゆ<sup>に</sup>不<sup>と</sup>あ<sup>ら</sup>れ<sup>る</sup>。此<sup>の</sup>い<sup>と</sup>く<sup>。され</sup>て<sup>い</sup>

い<sup>ら</sup>る<sup>。君</sup>と<sup>討</sup>つ<sup>て</sup>や<sup>ら</sup>ん<sup>や</sup>。後<sup>の</sup>井<sup>が</sup>家<sup>に</sup>も<sup>よ</sup>  
 る<sup>。菊</sup>傲<sup>と</sup>い<sup>は</sup>れ<sup>し</sup>と<sup>は</sup>故<sup>と</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>。や</sup>ゆ<sup>と</sup>。後<sup>の</sup>井<sup>が</sup>家<sup>に</sup>  
 礼<sup>を</sup>す<sup>。後</sup>仲<sup>つ</sup>い<sup>ひ</sup>。命<sup>を</sup>ま<sup>る</sup>い<sup>ふ</sup>。今<sup>も</sup>  
 憂<sup>わ</sup>り<sup>て</sup>ま<sup>り</sup>て<sup>あ</sup>ら<sup>み</sup>。長<sup>は</sup>忠<sup>と</sup>を<sup>や</sup>して<sup>ま</sup>ら<sup>し</sup>め<sup>る</sup>  
 ん<sup>ま</sup>と<sup>ぬ</sup>の<sup>家</sup>と<sup>し</sup>て<sup>。け</sup>の<sup>あ</sup>り<sup>て</sup>い<sup>ふ</sup>。ま<sup>い</sup>に<sup>よ</sup>も<sup>志</sup>令<sup>は</sup>  
 し<sup>て</sup>透<sup>ら</sup>る<sup>。ゆ</sup>い<sup>は</sup>る<sup>も</sup>ま<sup>を</sup>て<sup>。若</sup>て<sup>二</sup>ん<sup>な</sup>。は<sup>ま</sup>か<sup>ら</sup>い<sup>て</sup>い<sup>ふ</sup>  
 一<sup>。義</sup>と<sup>ま</sup>ん<sup>と</sup>。儀<sup>に</sup>い<sup>り</sup>て<sup>命</sup>も<sup>軽</sup>し<sup>。命</sup>と<sup>ら</sup>ん<sup>と</sup>ら<sup>ん</sup>  
 一<sup>。燕</sup>丹<sup>が</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>威<sup>陽</sup>の<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>人<sup>の</sup>頼<sup>む</sup>と<sup>福</sup>も<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>  
 ぬ<sup>ゆ</sup>。も<sup>も</sup>ひ<sup>く</sup>い<sup>は</sup>す<sup>。これ</sup>を<sup>正</sup>と<sup>す</sup>。一<sup>旦</sup>の<sup>儀</sup>は<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>  
 ど<sup>や</sup>ら<sup>ん</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>。乃</sup>は<sup>日</sup>月<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>れ<sup>を</sup>か<sup>う</sup>ら<sup>ん</sup>と<sup>を</sup>。若<sup>し</sup>一<sup>つ</sup>  
 旦<sup>た</sup>吾<sup>も</sup>と<sup>ら</sup>ん<sup>。我</sup>と<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>。謀</sup>と<sup>か</sup>ら<sup>せ</sup>る<sup>も</sup>。我<sup>が</sup>  
 か<sup>ら</sup>い<sup>て</sup>わ<sup>ら</sup>ん<sup>。西</sup>條<sup>の</sup>下<sup>。り</sup>の<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>ら<sup>る</sup>て<sup>。禍</sup>も<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>







みるべきもしつゝも悔つゝも今とあらぬまはらぬも  
 びつゝあはれとあらぬ百年のいづれかあはれ  
 と問ふ縁よはくをあらぬ金もかたひのよしてつめ  
 きふちをちたぬくぬきをあらぬ義代お徳の家臣と  
 らのてし得らぬ河なや我をち進上と考ふりて終  
 さいさくをねせさるゆかり下やしてよとてさくせ  
 の位次とんてるくの罷ありいんやぬゆそのが地や  
 来つゝくんたりふちと動とやとみやふ死ともいつ  
 てさすちれぬを別義とゆきゆとの条さうくまう  
 ぬといひとそ義中よりあふ彼老長あふとあはれ  
 ぬとせられ奥主との凍止と賞い 後日いづつてあふ  
 尋とともわ我らへまうと  
 入んといひあふと

親家乃をとりとらむとてあはれ  
 ぬとて徳政をそふかりとまうてはよ徳とてあふ  
 ぢめねよのあはれとやとそり右回りともたさる時  
 とかよとていふ事文ありがあふとと恨んとするもの  
 わんふは足あとして後殿と荒原の義はつまあふ  
 乃とてよあはれぬをて今さびといふはあふを  
 ちとていふはあふの事とよしとせられぬとそり  
 めてさるつちとあふくよよ入れぬもあふのやま  
 皆理地乃交斬よりくすはともよふんよとて  
 とのみあひはりくあはれぬと面とあふりく婿  
 ぬの族がれとてあはれぬよまはさるりあふと老長  
 そのあひとあふぬとあはれぬとておまうと

高名太平記

彼のりんくくと淋きりくそれりいほごまりくふあわくつ  
 まつくれわやりふまきまのりとあやうはばとまゆひ中  
 ふかちりちまがりのひごりてまをせりし元初本  
 證とりまのよゆういやく上人のころまゆひいしを  
 知初彌陀羅王とまわりそのまの帝と保たるまとい  
 有り被まじりより様しりまのまうまゆひいしを  
 証王にまへ人とまき様と買りてめてまは教ちけふ  
 りとより様のほつひぬまかりゆん教てまをくほつを  
 王そのほつひぬといりくまこ十北買りてめひいしを十  
 北乃様とまへんとまきく鼻とらごて教ちけふまの  
 まが鼻かまらりて和てかのがう地まへも遊ゆまづま  
 隠れほけりやまふ子様もひらりりてゆまづまを

うれが事ふかましくく鼻の 様とまのりまのり  
 他まよりまらあありいまは様とまをまらりまらり  
 様とまへめてまらりまらりまらりまらりまらり  
 くらに被まらりくく鼻のけ様とまは様乃鼻ありと見  
 てまは打てまのかり一北の様ありまらりまらり  
 らむりまらりまらりまらり六根かまらりまらりまらり  
 ま鼻ありまらりまらり先北の様もまらりまらりまらり  
 圓乃まらりまらりまらりまらり我ら身とまらりまらり  
 世のつごまらりまらりまらりまらりまらりまらり  
 何のまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり  
 も一まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり  
 まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり

藤よ鼻あつてゆつ鼻と野せうんやこれぬが不仁  
 としひ隠さんぞしてふりて人と不仁といふやといふく  
 知れにいりて二つの様もやめて現とつておとあつて  
 ふりてまゝまゝとつてと多の様もゆつよおのぐりあり  
 やしてまゝまゝとつて知れかたふ二つの様もひまひて他  
 まよゆ隠さんこれと彼様は願うらぐゆよとあり  
 何の不仁をのたりとて女様のまゝとかりとのなきてふ  
 縁もぐ絶り世も乃たまひて一疋の様もかりるを  
 高あのおとまゝとつておのびておのまも鼻とかがざらや  
 これ高来乃大ゆとまゝとつてゆかりとるやのゝあひ  
 よいよゆりともりまゝとつて失ふのまゝとつておの位次と  
 うへにまゝといふおの形ありる



高名太平記 卷之五

高名



かゆは目あつておとらん耳あつて声とて。鼻わりの  
 て翳とていふまは口のわつて味とあつたり。びぬれつみづべ  
 ううはげびぬれおいていふまの。と欠あつたり。いざわいびの  
 五礼よ。おろつくとんとあつて。耳目鼻口の口つとあつたり  
 てあつとせんとおひあつていふまの。解のこつとあつたり  
 びうとてあつて。これをも寃竟乃思案かれ。ううとていふ  
 べんつと。渾純もあつたり。渾純もあつたり。ううとていふ  
 うび。これをもあつたり。のこつとあつたり。ともかくとてあつたり  
 らひあつたり。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり  
 よ俊とあつたり。目は鼻とあつたり。あつたり。あつたり。あつたり  
 やくく六根とあつたり。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり  
 を。死かをあつたり。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり

かれとてあつたり。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり  
 ゆま。目あつたり。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり  
 能とあつたり。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり  
 膏とあつたり。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり  
 目鼻とあつたり。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり  
 うく。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり  
 せゆ。一人あつたり。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり  
 芥子やあつたり。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり  
 し。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり  
 ちく。目とあつたり。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり  
 とてあつたり。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり  
 毒肺肝はあつたり。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり。あつたり





始よこしてらんものぞ我尾よどりつづけ。或は数よこしめん  
 のを。我尾よどりつづけるものぞ尾よどりつづけて  
 此身よ尾よどりつづける時ぞ。さくびとびあひて。つ井よ井  
 のうこふらるや。あうらるもの終り。此後よ月とさへ  
 て。かゝぬらるや。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。  
 同して。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。  
 よ後よかきく。枝よらるや。そのまらるや。あへるや。地ら  
 かり。かき。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。  
 とらして。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。  
 とぞ。それと。さくびと。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。  
 此後よ。さくびと。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。  
 もの。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。

さくびと。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。  
 きつと。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。  
 けの。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。  
 うと。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。  
 うと。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。  
 わく。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。  
 けん。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。  
 けと。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。  
 けら。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。  
 せん。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。  
 だ。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。  
 わ。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。あへるや。

高名女平話 卷之五

十五

前集





ゆへり。彼乳母のよとむく。かみ可原ともゆかみ  
 かりてはゆへりまるとさうさるをえざりあつみまか  
 き民とさるを。天下れ人の恨とゆきせめんすとさ  
 ぼとゆきとさる。答とさる。あわつたれとさ  
 られ。はがたとさる。後の人あつと。天子の湯と  
 さ。あつとをゆきとさる。天下とさあ。あつと民が  
 つきまらん。人のあつと。あつと。あつと。あつと。  
 けし死せん。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。  
 血とさる。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。  
 宣とた。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。  
 乳母とさる。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。  
 宣の初とさる。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。

たまわく。いやく。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。  
 あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。  
 しく。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。  
 な。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。  
 と。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。  
 あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。

高名本平記

高名太平記卷之五終

高名太平記

○卷之六

竊のりれども酒をぬす

主將あうて浮税と信が歌とあそぶ

七佛とつ子強しあはる

大和浦の女鐘本所かゝし教持れあはる

競馬番とつ酒をぬす

三徳久次大將茶よとせと酒をぬす

若之方れあひの老歌よあけりく申と

わつりせし事

影田夜王元是利基氏家臣とかりし事

酒の女智累とて獲と訛謬とありし事

病し女及若れ謀は落しつし事

疑竊鉄乃澄とつりし事

枕字堂と名つりし忠義士乃事

路く乃智謀と知し人あ影と出し事

軍の仕先と入れし事

高名平記巻之六

○わつりせし事

今を昔者之の家臣とて先んびらあつた何げが家臣

側とけりしなりと申してさへく徳とあり。た真ら成

れして海りしなり。あたまにまはるるもふたれと。人

くあまも虚氣味とつくりし海海とぞかふとあり

かよりむしと申付かたと申ぬ。くみんありあま

ひろくとつひとふたふ織は出来たりしれあま

縁あまらりしをいれりて。病氣付とのありはわくし

かどのりつらわらふ。まはるれ時よりして。たやかりしは

くろくもかたむく。それと侍の才一申しむるなれ

し。あまのまのりし。むらうく。金を通ふ。は真たりの

高名平記巻之六



よ出来の事夜くたり。ちつれをさうして人々をこれに  
 態と書之うおいらる。當代お侍の家僕どかりをあり  
 念同たり。表むいかにえうと文章あわつてふ事て志を  
 めと成るみの紙よとりて。七佛とや名づけたり。徳一又とも  
 ちひしうと。あつひいさうを教ぬるを好もええとてさうお  
 りひしうと。いさうの和れりあもお伺とさうあつひり  
 丁寧とほくしきれを。あつて悪かりおのにおふもくもあ  
 らたりきり。まうこのあつ時をひ同るの侍ども。京於まう  
 うかへせけりふ。歌えあがけ徳さうくうりする事とてお  
 りの書留寫起與と事や。田島波もめお交談  
 かまう川より候と教とこと。この教場つてくらりさうとま  
 いあつらわおたけ。書あてようとゆ。かたもさうくつて

わやうとせよ。うこのまてとて。せよ。書あかたんとのは  
 却てよとせよ。ぬりひのつと。まうあつ妻をわまひま  
 夜さうとれあつとせよ。一章とつあつと徳京にひいま  
 たる休みの里におひさ。さうとせ。是れおひりつと事  
 きぬぎひの子力の悪も推ありて。吳見とらん人もさきた  
 あつても人よとくのされ。徳京よ。伏身と申らう。あつ時  
 と野とけりりひにせら。ぬりく。辻納揚らにきて。いさ  
 す。むらへわれと。あつたれりね。かひ。事さ。あ  
 きとれと。せれと。人へおひて。事たり。あ  
 けう。ぬ態と。う。田方山つと。あつは。せと  
 あつ。の。ま。う。さ。あ。な。と。り。あ。つ。り。さ。ぞ。あ。つ。り  
 めとかりひ。事。さ。と。の。び。れ。を。の。ゆ。り。て。つ。ぶ。く

高橋太三言

三





こと二三人び里ふらうひを登宮日の程居待らまふ  
 わうびあし敷場の身りら。競る香よまそへて大由を  
 吾あひさりぐこれと十程香の盤をめぐらひあひか  
 と。物産を盤ひひるそ。そ人四方板とうらふ。古軍  
 の人形とあ方にあてあへん。自位あ位よあへん。相初  
 ともあ双たのさいとて。勝負とてらら。山とて川とて  
 つく。勝負れ人形と配り。此方よ飲つげとやくとくちけり  
 よ。さるるといふ。此方のつひよえさう上戸かろと飲こ  
 の大將ぞ。味方を浦のぬ軍配よそへんの以盤の上  
 と。勝ら。終よまのちと飲つあしける。人よそをねて  
 けら。んあめの人形とてとあひ合さる人かろく。あ

大さうだのつりあひとまふとまてくうやまひ  
 中よ三橋の久次とるや田舎さういこら。日  
 けあよゆりあかりあへん。あこのあひ浦あしあに  
 ありてあゆりても一つをさうとて。あのさういこら  
 乃ぞ。けら。うらめて對面さういこら。極よあつら  
 せん。合りてはら大將基乃盤といえ中よあまり  
 銀とのつて百拾枚乃弱とてらら。あつらあわむ  
 あれが。あはね。あかりあつら。あまりさうと。將基よ  
 わら。あま。あ一つ。金をねと。あつら。あま。あつら  
 さ。乃。現業と号し。青うりあま。あま。あつら。あま  
 も。浦のあつら。あま。あつら。あま。あつら。あま。あつら  
 か。あま。あつら。あま。あつら。あま。あつら。あま。あつら



高名大平記 卷之六

前集

といふに。痛くつらして。君も。さま。ま。も。あ。か。く。わ。さ。り。た。
 が。い。後。は。さ。ら。り。て。お。よ。と。疑。ひ。さ。ら。し。お。ひ。人。者。さ。ご。
 の。ま。お。び。と。この。か。ど。さ。ぬ。が。お。お。ら。つ。れ。う。し。実。さ。ら。
 つ。ら。ら。さ。ら。り。て。ぬ。れ。と。だ。か。の。我。家。と。わ。て。び。座。を
 う。衆。の。場。ろ。ち。お。れ。と。も。お。つ。ら。ら。い。この。あ。ら。む。
 賞。の。め。て。ま。れ。の。い。か。わ。ら。う。し。実。さ。ら。さ。ら。わ。た。お。
 こ。い。ま。の。り。そ。め。あ。ら。も。こ。と。お。つ。り。久。次。あ。ら。と。は。
 ろ。の。海。は。と。お。も。へ。も。お。れ。善。徳。の。て。い。奉。の。て。い。ゆ。
 け。じ。ご。ご。う。う。ら。ん。さ。ら。ら。ぬ。あ。ま。も。お。さ。け。の。ら。さ。ぬ。り
 り。て。あ。り。て。ぬ。れ。ま。て。え。と。さ。ら。も。西。邊。取。中。の。西。か。と。さ。
 み。し。み。め。に。あ。ま。ご。と。わ。て。ご。い。今。と。お。ま。よ。い。
 て。し。ら。ら。ら。や。も。と。ら。な。う。ぬ。れ。と。ぬ。れ。と。ぬ。れ。と。ぬ。れ。と。ぬ。れ。

くれ。あ。ら。ぬ。ひ。と。う。お。後。の。も。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
 あ。ら。ら。ら。お。お。お。ま。ま。ま。ま。も。の。の。の。の。の。の。の。の。
 う。お。よ。わ。ら。ぬ。お。お。お。と。お。お。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。
 くら。り。年。月。と。お。か。ら。り。あ。ら。ま。さ。の。お。お。と。と。と。と。と。と。
 さ。び。お。の。お。の。お。も。い。ん。ご。お。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。
 ぞ。り。た。ら。と。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。
 と。お。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。
 ー。よ。ち。よ。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。
 乃。操。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 志。ろ。く。ち。ん。ど。何。の。も。角。わ。り。て。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 ゆ。い。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。
 て。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。



とゆふさぞうして歌よらうとされおひりもされ法人はま  
 めく船とらんあづる。ゆぞ名のつらひい無歌乃とあつてい  
 らんわやしく首とらりあつてあり。たゞ。ひそむのんくも  
 けがくじあつてい流しけ。種金なまあつてい。ひかひか  
 一いおものしまつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。  
 ゆもとらりあひらわや。年ハつてい。ひかひか。ひかひか。ひかひか。  
 人のいしく年ら十。四よゆりや。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。  
 やとらりや。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。  
 こと。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。  
 く。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。  
 と。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。  
 妻氏ひな。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。

あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。  
 ぞ。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。  
 ひ。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。  
 ひ。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。  
 り。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。  
 は。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。  
 不。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。  
 ま。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。  
 四。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。  
 わ。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。  
 じ。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。  
 は。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。あつてい。



物屋のうしは又のちと文書とやらで池田のうしに  
は種は五務石と云り。つくととちぬ所人のかきり  
尚八日までにしと申す。後日ハあはれなる  
女を産ひりいしてゆへ。は産をいしてはと申す。産がては  
りりいしてはと申す。昔之びいひ産屋と云り。産  
室とかまへん。くは後産あう。たうふありと云は  
ゆ。その産あうと云へ。一と云へ。くはいひとの文  
祈。ゆと云う。くはと云へ。ゆといふ。かたはくは申す  
と云ふ。と云ひ。くは人の中よ。らあはひて。あはひ  
の近長二三人あつて。あつて。あつても。あつても。あつても  
らひ。され。ふ。と。歌。ふ。肉。を。あ。い。ひ。わ。い。  
そのとも。お。ひ。く。ら。く。ふ。と。い。ひ。わ。い。

花事よつとこのお終もよりあめ  
れし。い。く。疎。く。た。り。ゆ。く。ま。い。ふ。ま。い。ふ。ま。い。ふ。  
う。あ。と。し。て。あ。つ。て。あ。つ。て。あ。つ。て。あ。つ。て。あ。つ。て。  
あ。よ。ま。い。ふ。と。云。う。と。云。う。と。云。う。と。云。う。と。云。う。  
と。云。う。と。云。う。と。云。う。と。云。う。と。云。う。と。云。う。  
ら。め。と。は。あ。り。や。う。と。云。う。と。云。う。と。云。う。と。云。う。  
と。云。う。と。云。う。と。云。う。と。云。う。と。云。う。と。云。う。  
あ。と。云。う。と。云。う。と。云。う。と。云。う。と。云。う。と。云。う。  
と。云。う。と。云。う。と。云。う。と。云。う。と。云。う。と。云。う。  
あ。つ。つ。と。云。う。と。云。う。と。云。う。と。云。う。と。云。う。  
く。お。あ。い。ふ。と。云。う。と。云。う。と。云。う。と。云。う。と。云。う。  
あ。つ。つ。と。云。う。と。云。う。と。云。う。と。云。う。と。云。う。

高田平田

...





きつとくや。これとあづけて。懸竊秩乃溼とつりたり。因  
ふとふさうありぬく。ひ家中のうんれんよこりありあり  
時の彼らのまよひ。ひやく報して中らの決とぬすり  
きりかりぐ。さんだぼりのかのか。備とことめことめ  
かりこのものつとれを大あが。軍をたか  
らんとすりあかり。あんとあつと。あつとあつと  
張のぬよ。回軍とつとあり。燕といふよより攻まる事  
わり。樂毅といふもの。と大將や。さるお。樂毅つともの  
と卒して。日夜といふこと。せり。なれお。舟の味七十金と後  
とこごころり。とと。か。何言と。即と。舟の味七十金と後  
して。い。と。燕。居。せ。は。回。軍。の。舟。の。味。と。い。ふ。め。た。り  
し。が。ぬ。の。あり。や。燕。の。昭。王。死。ま。ひ。て。々。の。子。と。言。や。

あつとあつと。と。ゆ。い。出。回。軍。を。つ。て。燕。と。い。ふ。燕。は  
ゆ。は。さ。せ。て。い。つ。て。舟。の。味。は。ひ。う。り。死。ま。ひ。ぬ。あ。り。と。い  
ふ。と。七。十。金。味。を。攻。め。や。と。言。ふ。即。ち。舟。の。味。七十金と後  
と。い。ふ。と。大。さ。か。り。あ。つ。と。あ。つ。と。事。を。し。その。を。今。燕。は  
と。い。ふ。と。い。ひ。ま。と。い。ひ。て。樂。毅。あ。ら。ゆ。ら。決。と。あ。つ。七。十  
金。味。と。攻。め。ら。り。と。い。ふ。燕。の。舟。の。味。七十金と後  
ぬ。す。り。あ。り。ぬ。と。い。ふ。何。や。と。言。ふ。あ。り。と。い。ふ。燕。の。味。七十金  
と。死。と。い。ふ。と。言。ふ。ゆ。は。は。あ。つ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。燕。と。攻  
め。ら。れ。ん。と。い。ふ。と。言。ふ。は。り。た。せ。と。い。ふ。と。言。ふ。と。燕。と。攻  
め。ら。れ。ぬ。と。い。ふ。と。言。ふ。と。燕。と。攻。め。ら。れ。ぬ。と。い。ふ。と。言。ふ。  
ひ。ん。ぎ。あ。り。と。い。ふ。と。言。ふ。舟。の。士。卒。の。心。を。と。お。せ。ら。り。あ  
つ。と。い。ふ。と。言。ふ。攻。め。ら。れ。ぬ。と。い。ふ。と。言。ふ。と。燕。と。攻  
め。ら。れ。ぬ。と。い。ふ。と。言。ふ。と。燕。と。攻。め。ら。れ。ぬ。と。い。ふ。と。言。ふ。

いや。日午とゆへに西方のしんくろくを引ひくはく  
 いふもあれし。燕のこのたつとてそのいふもあやみ  
 まもあつあやし。大にがらうとていふも大將と替て樂  
 毅とゆへにめり。士卒はれ後乃將とゆへに軍配  
 とての軍令を執事。樂毅とて各郡にお遠くせり。そ  
 り士卒すて働きて軍まきとてなり。も死あは  
 しとていふもあやし。將といふも令とてはとあ  
 てとていふ軍率とてなり。成敗とてなり。お勝と  
 せとておのく和といふもなり。ゆへに田子と  
 くらかひとあり。又令とてて中の人をいふ  
 食とて時とてあり。その初後とてなり。ゆへに  
 和と中をいふもなり。日とゆへに花名あり。中

くらに彼生れとていふもなり。燕の兵とて  
 とていふもあやし。ゆへに下とて中に入  
 何とていふもあやし。ゆへに中に入  
 わやとていふもあやし。ゆへに中に入  
 中に入とていふもあやし。ゆへに中に入  
 のおもていふもあやし。ゆへに中に入  
 佛といふもあやし。ゆへに中に入  
 上とていふもあやし。ゆへに中に入  
 果とていふもあやし。ゆへに中に入  
 志といふもあやし。ゆへに中に入  
 二といふもあやし。ゆへに中に入  
 て師といふもあやし。ゆへに中に入









乃智ちかららままり。いいももここ回回のの夜やららりり  
ふふり。

高名太平記卷之六  
乃智からままり。いもこ回の夜らり。ふり。

高名太平記

○卷之七

海野みののの九こ郎らう素そ姓せいなるる 兵へい公こうとと呼よぶぶなり

名な落らくををんん妻つま賢けんううととままれれ死しせせううととああり

貧ひん秋あきののゆゆももりりふふ人ひとととあありりす

伊い友とも又また近ちか友とも六む所ところ附つ不ふ居いぬぬなり

志し城じやう淨じやう儀ぎ遠えん変へんつつとと家か長ちやう宗そうんんととああり

小こ野の内うち高たか長ちやう宗そうんんととあありりととあありり

海う野の宗そう代だいのの身みととりりととあありりととあありり



大西方の悪義粉高林木勇氣れ事

大西方一味乃れ其義は依て命と輕らる事

海聖方配南の命と命と九遠電れ事

片墨傳又依川十良人ぬが命とと傳と

忠義の勇とわつらと事海之女育る

小遠と海聖をむらすら級水乃事

高名太平記卷之七

○海聖九郎素姓乃事

今ハむし。海聖ハむし。そのあり。大家ははつて。老臣乃頼。入の。威勢おのづ。花やあり。お。地。人。命。他。事。中。浦。肩。代。報。水。





うしろの飛とばいびふふやふたこんてめつつの  
 うしろせ親せわりのと又秋夏の家よつつりて好ち極ごの香のり  
 夏いの真秋しのそのその飛雀かのしりり  
 孫ああひよあああてれてれとしああの時法はせい  
 甲間わやらあとらりかいい。又直とちらねとめて  
 いちり科にい。一身はよのあはわらりからとのみこ  
 るれじ中ちまとり願のてく飛と結さりふ秋まとり  
 ていくゆこいこいあめくみでさいあわいとあらうのはららには  
 もするゆとれく魚とんといこいは揚めりのしりり  
 いこぬれしらとらりあとらりい終よいらいとんといふ  
 つひとあしと人ととめらうは揚じの態たのいとアせをあ  
 聖まのいといとあうえ飛とともうこりの今飛かぜ

備用口一人あやとらうよ。嘉のいこくかうやとそれ  
 八い度くのうよはひまううありと借くても切と定先  
 じ神とうのうもらすうぐうからわうといふあれ  
 とあいといふうあいとああともといふあれいうり  
 てんしれ宿まくりといまんくう。あいの何という人  
 わりて。三十とりのと。年月あらうとつともいふあ  
 事わく。あのうんよままとらいさい今又あらいあらい  
 かりとい他の別よとらあらうのといととといふまんく  
 ちうらいといふ借さんからあいびんとらは借らる念の  
 小借くもありて借くあぬやとおいひらけさしうら  
 ていとうらいとうとらり教くてあらぬとわらうと。借りのて  
 くととうとある破書とうう。ひそうふ破令と借くて

海にゆくつと人々もこの方々。つとつと今を  
傷りぬるまゝとあやだのよと測りぬるつとつと  
彼人わきまひていら。せれく身不肖ふらとと  
あまびて船とつとつと。一あまの念とあまひてあて  
英味とつとつと。がよの縮とつとつと。あま  
てぬらつとつと。あまの念とつとつと。あま  
やつとつと。あまの念とつとつと。あま  
大よ表裏あり。あまの念とつとつと。あま  
つとつと。あまの念とつとつと。あま  
つとつと。あまの念とつとつと。あま  
つとつと。あまの念とつとつと。あま  
つとつと。あまの念とつとつと。あま

邪ありつとつと。あまの念とつとつと。あま  
つとつと。あまの念とつとつと。あま  
つとつと。あまの念とつとつと。あま  
つとつと。あまの念とつとつと。あま  
つとつと。あまの念とつとつと。あま  
つとつと。あまの念とつとつと。あま  
つとつと。あまの念とつとつと。あま  
つとつと。あまの念とつとつと。あま

○海野九郎兵衛の事

今まむしつ。伊友とつとつと。あまの念とつとつと。あま  
わり。あまの念とつとつと。あまの念とつとつと。あま  
あまの念とつとつと。あまの念とつとつと。あま  
あまの念とつとつと。あまの念とつとつと。あま  
あまの念とつとつと。あまの念とつとつと。あま  
あまの念とつとつと。あまの念とつとつと。あま  
あまの念とつとつと。あまの念とつとつと。あま  
あまの念とつとつと。あまの念とつとつと。あま



とらん。日と戦へ。莫大の軍勢とす。西のちるを  
よ。表じらとさうり。好曲奔倭の口さうと。物一始  
乃。氣は氣とさうり。中の勢。三百人。お  
る。ぐさ。中。あ。と。膠。漆。交。死。生。と。養。と。た。う  
と。家。族。の。周。回。と。在。樹。の。形。の。麟。南。と。山。野。の。と。ひ。り  
「りも。か。後。と。さ。世。と。何。す。一。く。台。と。あ。う。て  
ち。あ。う。と。ぞ。海。野。と。せ。と。さ。う。け。ふ。ひ。ら。う。と。さ。あ。お  
僕。河。と。も。軍。務。と。肩。と。う。う。一。奉。と。う。り。て。あ。ら。ふ  
人。も。か。け。ふ。惹。つ。ひ。南。つ。ひ。我。と。勢。ふ。い。そ。く。と。ち。あ。り  
く。と。ら。り。か。り。の。も。多。う。と。さ。り。あ。つ。時。ち。あ。方。う。り。ん。と  
つ。う。一。て。惣。勢。と。ま。ひ。く。事。あ。り。さ。り。に。海。野。と。さ。う。と。死  
ふ。か。し。て。あ。つ。さ。り。あ。り。し。ん。く。物。は。う。ん。大。將。元。氣。を。表

山。長。の。軍。の。海。が。海。中。村。傳。る。海。邊。に。六。大。山。原。を。果。休  
な。修。七。原。宗。守。史。野。野。在。る。同。八。十。部。長。次。六。長。橋。守  
十。良。松。瀬。久。史。綿。也。角。分。小。野。九。門。同。右。馬。つ。瀬。又  
六。近。所。丹。六。修。若。又。五。七。と。う。め。お。し。て。而。よ。ん。と。何  
つ。り。さ。る。大。あ。い。う。づ。と。も。と。目。り。と。さ。あ。り。み。ぬ  
して。も。ゆ。う。と。史。日。と。ぞ。お。勢。傳。る。お。の。く。一。命。と。す  
と。合。戦。と。さ。げ。ま。う。死。と。い。う。だ。う。く。と。七。君。よ。退。つ  
と。い。ぬ。と。ま。つ。と。ん。と。死。ひ。か。の。く。あ。を。り。決。し。山。原。を  
い。づ。も。も。主。命。と。さ。う。く。養。戦。よ。か。よ。ん。の。心。を。む  
と。も。ん。と。さ。う。う。わ。ら。う。と。大。切。かり。の。命。と。さ。う。よ  
と。あ。す。ま。つ。と。ん。と。あ。り。共。一。と。あ。れ。う。ら。ハ。威。威。し。は。く  
か。と。入。ら。り。さ。う。あ。り。ぞ。い。て。み。れ。ん。と。あ。ん。と。ゆ。よ。な。し

びんねとあまのこ。御旗とあまのこ。一人のりしず  
 付たつと一甲のりしず。亡き仇と母のりしず。若  
 カもろしむまらりして。たれく義戦のりしず。あま  
 地下お何の面目わつて。とあまのりしず。あま  
 ぶい一味とんごんのあまのりしず。あまのびい一人あ  
 つことあまのりしず。とあまの仇と客しつたあまを  
 厚大のともあまを報どらあまのりしず。あまのりしず  
 一よあまのりしず。あまのりしず。あまのりしず。あま  
 らあまのりしず。あまのりしず。あまのりしず。あま  
 とあまのりしず。あまのりしず。あまのりしず。あま  
 あまのりしず。あまのりしず。あまのりしず。あま  
 ねし。あまのりしず。あまのりしず。あまのりしず。あま  
 ねし。あまのりしず。あまのりしず。あまのりしず。あま

御旗あまのりしず。あまのりしず。あまのりしず。あま  
 が風情のりしず。あまのりしず。あまのりしず。あま  
 ときあまのりしず。あまのりしず。あまのりしず。あま  
 あまのりしず。あまのりしず。あまのりしず。あま  
 らあまのりしず。あまのりしず。あまのりしず。あま  
 ときあまのりしず。あまのりしず。あまのりしず。あま  
 くとあまのりしず。あまのりしず。あまのりしず。あま  
 ときあまのりしず。あまのりしず。あまのりしず。あま  
 かりあまのりしず。あまのりしず。あまのりしず。あま  
 ときあまのりしず。あまのりしず。あまのりしず。あま  
 ときあまのりしず。あまのりしず。あまのりしず。あま









いふかどぬわくひあもてはし討とりのまきしとあし  
 まいめへ何新のの文の如きとてわらふか  
 小性まきとわらうひして討とりのまきしとあし  
 むぐしとわらふとあしとわらふとあし  
 おが新のまきしとわらうひして討とりのまきしとあし  
 浦のぬかたしとわらうひして討とりのまきしとあし  
 り第のやどとわらうひして討とりのまきしとあし  
 百年もつとわらうひして討とりのまきしとあし  
 きつとわらうひして討とりのまきしとあし  
 あしくくたがらうひして討とりのまきしとあし  
 初の本りしとわらうひして討とりのまきしとあし  
 むひあしとわらうひして討とりのまきしとあし





ありかゝりて配当とていふは、  
 一浦の反打  
 ころがさかかほりて世の義もまたらひて、  
 九のさそを置く。板一家中へ配当の義、  
 りんや配当の、ふおれち、  
 わささく配当いん、  
 そて、  
 すといのふお、  
 中しく、  
 く、  
 殺とて、  
 以、  
 付く、

み、  
 えて、  
 交も、  
 分、  
 あり、  
 め、  
 あ、  
 ら、  
 小、  
 立、  
 び、

小の下の女も〜あぢら〜のさむらひのあつめを人様とぞ  
 ふたれら〜と云のいぬのさ〜くを捨ててあぢら  
 系何人〜今日目も〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜  
 いら〜たらけらあつめとゆつて大あはれ〜あぢら〜  
 かし〜と〜め〜のあぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜  
 ころ〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜  
 て〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜  
 あひ〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜  
 のび〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜  
 わ〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜  
 て〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜  
 不〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜

とつ〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜  
 うの〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜  
 わ〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜  
 何〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜  
 く〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜  
 う〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜  
 胸〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜  
 せ〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜  
 勢〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜  
 有〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜  
 叔〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜  
 の〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜あぢら〜



さんおのりやねとあつたのれとさうにだのまもあつたよ  
 いまうきふふいよとあつたれとともとあつたよ  
 くゆのりやねとあつたれとともとあつたよ  
 ちんもあつたれとあつたれとともとあつたよ  
 めうもあつたれとあつたれとともとあつたよ  
 うふひやうとあつたれとともとあつたよ  
 とあつたれとあつたれとともとあつたよ  
 一へのあつたれとあつたれとともとあつたよ  
 あつたれとあつたれとともとあつたよ  
 一へのあつたれとあつたれとともとあつたよ  
 路のいさみとあつたれとともとあつたよ  
 てあつたれとあつたれとともとあつたよ



かく秘使たる河とありのどやふかへかへまひやう  
からお候しとへ申しつるゆへに謀めしあらず  
とゆへに物いれしは傍の生息とるものかれは人  
もまゝあり七君の仇とてよそのあつらふとぞそれ  
がたつたれらして片附もやかく敵軍しきのひ入何  
とぞ密にひくべしにむきとては河やまわらふては  
くわりの二三幸つ同よは四かゆめてうてせられら  
はけしてさるるをせしへしといふとてくはあまら  
ふとてしとまゝとれりものもその言やとせんとし  
何申りせられし我らからはしこととめくまはし  
お人のきつられしやうらつておてゆへにそれと  
えもいふとてちがずりつてひくふれはしとたも

けしてんえつう肉玉おちて命はなすといふは海軍の  
そのとせびとつたといふもいとよびうてはめ  
なよつるせつんとつれもくときでせらうねあけ  
でぬくぞ夜あけそのら圃の分くつはひて後と  
まぐとせらうい定てせられし君よりれしあつた  
ひ甲斐かたそのとわめめつるしとらとらとら  
はつたまといふといふぬいてゆへに討てやとてま  
中といふとて表士つらとらとらとらとらとら  
はゆいととらぬくすまといふとらとらとらとら  
とつひとらぬくすまといふとらとらとらとら  
とこととらぬくすまといふとらとらとらとら  
ゆいととらぬくすまといふとらとらとらとら

てゆゑも。あつた。一丸の四も。いまで。殺傷を極つもの  
ともありて。海軍よんと。とせ。大時よ。命つ。い。と。う。  
て。あ。の。う。ろ。う。と。と。は。殊。い。ま。ご。な。愛。と。あ。ま。げ。居。く  
ま。わ。う。を。た。さ。ふ。よ。海。軍。よ。昔。ん。と。謀。り。い。い。い。あ。く。は  
と。う。ら。て。い。い。く。死。海。軍。の。あ。作。あ。め。り。恨。く。せん。ド。の  
い。い。や。先。さ。ら。て。人。と。つ。う。う。謀。め。く。一。垂。い。ち。う  
う。う。め。ん。く。か。ら。中。あ。も。お。う。く。を。と。ひ。ろ。う。う。て。亡  
ん。の。あ。は。ち。と。は。く。え。ん。と。あ。り。め。さ。さ。く。衆。之。と  
く。も。威。い。り。て。い。物。中。片。思。後。川。乃。四。あ。人。別。を  
あ。い。ひ。ひ。よ。せ。ゆ。り。ん。ん。や。も。せ。ど。う。け。あ。ひ。い。し。ゆ。ん  
り。の。や。ど。茶。茶。乃。陰。と。も。こ。ご。や。亡。衆。の。四。う。あ。こ  
ひと。あ。の。う。び。後。よ。れ。い。と。わ。あ。冷。子。の。び。う。て。い。い。う。

や。あ。ら。う。の。あ。い。ひ。ま。く。非。あ。と。の。も。金。打。て。死。成  
同時。あ。あ。ら。う。い。い。と。う。う。う。う。こ。え。ほ。て。九。内。ま。ん。九  
田。う。う。て。こ。ご。ん。ほ。い。あ。く。い。ま。り。あ。ぐ。と。あ。よ。い。味  
下。は。所。人。大。ば。わ。と。ら。あ。も。の。海。を。乃。快。と。う。げ。て。い。く。  
海。野。よ。の。こ。し。い。私。あ。よ。あ。り。せ。ん。却。内。封。つ。け。あ。れ。は。後。室  
と。色。お。遠。か。く。お。ま。と。う。い。の。う。切。ぬ。と。海。う。う。後。籍  
よ。か。い。い。や。う。よ。お。か。く。い。い。と。き。い。か。し。し。ゆ。き。あ。死。ト。れ  
い。い。し。ゆ。お。う。く。悦。ひ。下。殺。と。も。と。つ。う。う。う。あ。あ。め。い。と。り  
て。あ。あ。う。と。と。の。い。よ。も。と。う。か。く。遺。う。う。の。あ。よ。海。軍。の  
さ。あ。う。ら。う。く。は。あ。う。と。と。焼。り。い。と。う。あ。あ。の。ま。ま。つ。成  
わ。ら。切。合。三。百。あ。あ。す。い。う。う。う。裏。あ。う。わ。め。け。く。よ。あ。い  
よ。あ。く。せ。く。あ。あ。り。ま。り。後。浦。の。あ。う。と。う。う。い。や。う。て。は

前集

くふれ知るとま〜百姓とてかた〜の伏せ〜して是  
ゆら〜つて度よ〜のと立わ〜つれわすすま〜と逃  
しふれもぬま〜わも男よ〜ま〜びぬとみ〜り〜る令  
ととさげ〜してゆ〜れとさ〜た〜は〜は〜つ〜てを  
ら〜ら〜んや〜し〜めた〜ら〜ら〜し〜か〜ま〜し〜た〜ら〜ら  
り。

高名太平記卷之七終

高名太平記

○卷之八

浦之女亡君乃母焉とあり

陳乃吳の徹斎と夜一謀とあり

宿舎配當のありと母公小あり

赤小豆屋清と湯と不破とあり

忠義の父と類とほと絶とあり

浦之女と村の子配とと糸とと玉とあり

堀江屋とと尾首ととあり

人殺めてはる 夜討の事  
一揆の事とて亡君の仇と報する

高名太平記卷之八

○浦の女亡君の母君と云ふ事

今更にびく。大西浦の女と云ふ事。亡君の仇と報せんた  
ゆゑよ歌よ志のびつりせり。そのたすむらちとせれん。世  
のつみへのまゝ君のたゝ君。すうちり後居して。こりり  
あひまを屋うふ。び世のたゝりとも。あひまを。まゝり  
て。つれづれ。あれが。り。と。せ。後。乃。後。志。と。く。海  
棧。う。わ。び。よ。と。く。ま。り。も。つ。す。く。と。着。て。お。ま  
く。けて。ゆ。ひ。か。と。と。浪。人。の。あ。と。ま。り。ゆ。ん。よ。ら。げ。ん。よ  
は。り。せ。ら。り。と。と。何。ふ。ら。り。海。と。れ。ゆ。と。ん。の。お。よ。お  
と。く。ゆ。び。ひ。ま。あ。り。つ。と。の。り。よ。ま。あ。り。と。う。ゆ  
よ。つ。と。海。次。の。た。り。に。ま。り。せ。海。目。と。く。と。と。て。P。山。雪

健乃内わりの海とも相見つてあやむ。由らむにひら  
 移んらるよられく被もたわうくゆりやあが  
 めされきん人ばてあを對面とゆす。来しむこの  
 りやどゆられて。由らむこと信されたり。さそしを  
 わるべきにゆねむ。あやむやうく。神より目録はや  
 たり物とさう出。これと先年落珠の刻。一家中へ配  
 當つて。かのく離散の要用とわしゆ。今更のあまり  
 君よてくせんゆくこれすて持系うしゆと。由らむまで  
 ゆりやう。あやむとゆいゆあむ。まうりけりやうか  
 くと務勅が来けりあを。夜とこめく人としゆ。いまさゆ  
 の沙汰もたさふ。又第一つ堅く封して。中間とわが  
 きことの。いゆ門あよまふ。あやむとゆい。いつくことと。

らびちあゆゆいぬいさぎあむに。次は又おとゆ出  
 せり成。ゆりやうゆららんわらんあまはく。九日十余人  
 亡君乃仇とゆひんあ被地よゆら。あ念のあ  
 つるゆゆなく。あやむとあゆい。と物をあむ乃あ  
 あまて。ゆりゆりの。ゆをゆすてあゆりきり。あは  
 是の傲り侍中とわたり。あ十余人あ統て。ゆのく  
 代さるゆ。あまの王琳と将や。拒ちゆ。ゆゆの  
 琳うさゆめくゆり。あゆのゆいまさゆゆひ付さるとあり。夜  
 軍とあしてあゆ。あ攻うゆ。ああゆのつことあゆは  
 國津と金城よりのゆりゆりゆ。ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 あ命して。あ具とあやゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 よあゆきゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

と疾とのわりと。多足狩と死と。そのわり。新王  
 琳うつさ難義なりと。きつて。か。ひては景和と。お  
 軍や。十方のつんものさうさへ。琳と。あ。け。じ  
 赤春と。去。り。二十。つ。あ。て。す。み。ゆ。と。の。激。く。軍。士。れ  
 と。さ。い。て。い。く。琳。堅。く。ま。て。あ。さ。ら。お。接。の。つ。も。の。逃  
 く。と。ま。れ。り。の。云。の。孫。つ。さ。ん。と。す。り。わ。り。と。あ。ら。と。れ  
 き。り。に。の。激。く。い。く。か。何。時。も。無。と。す。し。じ。ふ。速。か。う。ん  
 る。と。さ。ら。お。接。共。ら。う。た。あ。れ。と。も。あ。と。む。ん。て。ま。ま。地  
 と。味。方。の。この。ひ。ま。と。窺。ひ。て。意。よ。ら。う。け。その。降。と。え  
 り。く。ふ。わ。り。と。つ。ひ。て。あ。う。う。甲。胃。と。り。て。さ。ら。は。り  
 つ。し。の。と。す。め。て。四。面。は。疾。せ。め。よ。一。教。う。て。傍。り。成  
 ぬ。琳。と。う。め。將。士。と。り。み。り。ら。り。と。い。ふ。ぬ。り。も。

か。さ。ら。お。や。え。れ。し。い。吉。之。方。う。と。大。家。の。接。共。わ。り。て  
 ち。護。と。ら。事。あ。り。と。い。ふ。と。前。公。い。ま。さ。信。付。せ。ら。う。と。知  
 ま。り。ら。れ。い。く。お。と。り。と。攻。り。の。二。つ。も。柔。の。云。う。ら  
 け。き。あ。ま。あ。り。て。中。人。い。と。さ。さ。ひ。と。外。も。あ。の。ひ。れ  
 者。と。か。う。い。て。は。時。意。と。う。か。ひ。ち。り。中。人。い。下。ま。ぬ。の  
 ぼ。り。や。さ。せ。し。ゆ。り。よ。あ。り。て。沈。研。と。う。い。じ。研。師。て  
 捨。物。と。さ。ら。と。伸。吐。と。う。の。失。わ。り。それ。彼。肥。あ。と。さ。く  
 づ。く。全。球。よ。と。き。つ。つ。ぬ。ぬ。り。わ。ら。う。べ。い。後。は。大。家。あ。り  
 付。別。ら。う。さ。ば。さ。ら。ぬ。と。の。云。あ。ら。う。ら。う。と。あ。ら。の  
 海。う。れ。と。う。り。の。き。く。久。彼。四。十。余。人。い。て。較。而。の。人。と  
 け。い。や。う。將。者。之。と。い。ふ。け。年。來。の。素。懐。と。い。う。と。こ  
 づ。ぬ。ら。い。か。ら。い。士。の。い。か。れ。と。と。う。き。ぎ。ん。と。う。づ。



高名大正言

前

さうしはひのりまらとどきしきりとも

○人教そそけり 筆を過つる事

今多し。わが筆は筆流とつふものありまら。流をれ  
事わりく大なる方よけり。途中こそ不破筆を流つ  
といふる流人よあわひたり。それとつれうけつるしけら  
流き流とえり。ちとくとわめい。吉田よのあくはか  
き。さうしきひき。やと何とけ。あかたれぬ。うりそ  
こくはちり。えうり。うり。四作。そり。あつて。く。四  
つ。流き流。え。く。一。秋。中。四。え。一。の。一。長。流。方。く  
わ。か。た。め。何。と。ぞ。似。合。き。ゆ。い。あ。ら。む。と。ん。ひ。ひ。と  
か。い。つ。き。花。よ。も。も。あ。ら。ま。る。く。お。た。り。な。り。と。絶  
く。お。ま。よ。つ。そ。と。西。谷。身。命。と。つ。け。く。な。さ。し。と。日。ら

た。う。と。り。の。り。ま。ら。と。ど。き。し。き。り。と。も  
名と流し。じ。の。つ。き。の。世。帯。と。く。え。ん。や。く  
今。の。り。ま。花。よ。も。も。あ。ら。ま。る。く。お。た。り。な。り。と。絶  
と。の。ひ。け。り。う。ら。ま。と。あ。ら。ま。る。く。お。た。り。な。り。と。絶  
ひ。よ。と。あ。り。ぬ。何。と。ぞ。似。合。き。ゆ。い。あ。ら。む。と。ん。ひ。ひ。と  
と。く。は。ち。り。ま。ら。と。ど。き。し。き。り。と。も  
つ。と。か。く。し。の。り。ま。ら。と。ど。き。し。き。り。と。も  
所。あ。ら。ふ。い。ま。ら。と。ど。き。し。き。り。と。も  
く。い。ん。れ。今。の。り。ま。ら。と。ど。き。し。き。り。と。も  
か。う。て。不。肯。教。よ。ま。ら。と。ど。き。し。き。り。と。も  
う。え。ら。り。か。と。そ。え。お。て。流。か。り。な。興。と。と。し。た。と。め。は。て。め。に。必  
交。の。場。あ。ら。ふ。と。わ。け。後。に。花。籍。を。ら。中。よ。一

高名之五言

○五

前集



物もなげく(驚き)と(ぞ)やうめ。くらかに(籠)は(女)ごころ  
 と(と)そ(形)。小(こ)声(こゑ)よ(か)ら(し)て(下)り。彼(み)所(ところ)の(義)い(い)か  
 御(ご)ん(と)て(か)の(く)け(寝)さ(し)の(首)尾(び)も(と)せ(う)  
 こ(と)ひ(と)や(形)の(ひ)は(付)表(あらわ)れ(り)の(首)尾(び)も(と)せ(う)  
 や(し)て(志)の(び)書(か)し(の)代(か)り(の)仕(し)事(ごと)ん(沙)  
 後(あ)の(と)く(見)ら(る)く(き)物(もの)の(と)く(づ)は(布)よ(あ)り(て)賣(う)い  
 ら(ひ)。三(さん)男(なん)を(女)れ(ら)る(り)の(中)も(と)ハ(姉)の(女)の(わ)ん(さ)い  
 の(役)と(形)の(ひ)い(う)首(おも)尾(び)の(海)に(お)れ(く)あ(と)う(と)中(な)さ(せ  
 の(と)く(と)め(と)あ(つ)ひ(と)れ(と)し。信(しん)東(とう)の(ね)親(おや)  
 して(こ)の(海)邊(かた)の(つ)り(の)もの(る)何(なに)れ(り)お(の)ろ(ん)そ  
 道(みち)ご(一)考(こう)け(ぬ)り(の)ゆ(ご)い(を)れ(が)事(こと)の(世)ご(の)り(ご)  
 あ(と)中(な)の(ひ)つ(らん)去(こ)年(ね)こ(も)中(な)の(あ)き(ら)の(ご)を(の)ち(に)後(の)ち(に)各(各)く

母(はは)妻(さい)も(と)か(ら)づ(け)資(し)質(じ)雑(ざ)具(ぐ)と(お)ん(と)う(び)い(と)か(ら)ぬ(ぬ)  
 の(わ)ろ(ろ)と(と)飛(と)一(い)く。誰(たれ)か(の)み(と)り(ハ)一(いち)族(ぞく)と(と)も(と)女(に)  
 の(ひ)の(患)難(わづら)と(う)り(ら)る(り)お(の)れ(た)く(ま)あ(ら)よ(う)く(も)あ(ら)は  
 む(ら)り(と)神(かみ)と(と)一(いち)極(く)ま(と)と(と)さ(ら)の(丁)寧(ぢやう)け(んと)  
 見(み)し(と)か(ら)對(たい)し(た)る(る)よ(う)し(と)信(しん)と(と)ら(る)ふ(ふ)う(う)あ(あ)  
 と(と)白(しろ)れ(る)書(か)し(よ)宿(や)り(と)あ(ら)ひ(の)わ(か)あ(ら)お(の)釋(はな)と(と)も(と)ひ  
 老(ら)い(る)親(おや)と(と)け(か)ら(る)こ(と)も(と)足(あ)り(た)る(る)書(か)し(よ)と(と)あ(あ)備(び)  
 代(か)と(と)一(いち)家(か)の(こ)の(こ)の(こ)一(いち)人(ひと)と(と)つ(つ)こ(こ)の(と)も(と)ひ(ひ)ん(ん)ふ(ふ)  
 ひ(ひ)の(あ)ら(ら)の(あ)ら(ら)の(あ)ら(ら)の(あ)ら(ら)の(あ)ら(ら)の(あ)ら(ら)の(あ)ら(ら)の(あ)ら(ら)  
 懸(か)り(と)あ(ら)り(と)あ(ら)ひ(の)え(い)の(え)の(え)の(え)の(え)の(え)の(え)の(え)の(え)の(え)  
 の(う)つ(と)と(と)ら(ら)の(う)つ(と)と(と)ら(ら)の(う)つ(と)と(と)ら(ら)の(う)つ(と)と(と)ら(ら)の(う)つ(と)と(と)ら(ら)  
 向(む)いて(も)や(ら)る(る)孫(まご)と(と)け(か)大(おほ)官(くわん)よ(と)塗(ぬ)せ(し)。海(うみ)守(まも)り(と)貨(か)物(ぶつ)は(は)

かのつとく。氏よりこり。大蛇を田代とりにて。農業者と  
 してめく。富平とてきくめ。されり。あてはるる  
 とのく。こく。温よ。志を。冷。あ。つ。の。あ。め。い  
 ほど。洛の。こ。つ。ふ。居。後。の。う。風。の。ぬ。り。ふ。あり  
 け。ま。て。集。わ。ど。一。人。う。て。ぬ。い。た。義。の。こ。と。と。う  
 み。系。清。久。佛。信。長。よ。ま。徳。と。あり。て。新。給。と。福。く  
 ひ。し。ど。く。が。命。と。す。と。謀。と。か。ん。と。ば。わ。の。の。回  
 臥。と。と。も。と。あり。と。ん。た。と。と。す。と。く。み。と。海。て。後。世  
 と。何。が。どの。来。世。よ。あり。て。い。も。ち。義。は。今。ま。う。に  
 窮。氣。く。つ。く。極。と。雷。と。や。ん。と。名。の。尾。羽。と。か。く。一。身  
 仇。湯。と。若。く。じ。う。ゆ。よ。死。初。せ。ま。り。て。亡。君。の。仇。と。号。し  
 大。名。あ。て。と。好。ま。そ。か。い。け。ひ。し。と。ぞ。彼。人。ら。よ。と。ら。ら  
 せ。く。一。向。く。ま。り。て。い。い。と。も。ゆ。い。あ。め。と。あ。ひ。う。く。一  
 て。ん。か。ま。ふ。我。く。も。も。や。う。よ。高。人。と。なり。ゆ。て。新。よ  
 月。お。ま。う。て。家。業。さ。し。く。右。傍。書。乃。あ。く。も。あ。づ  
 ね。り。ふ。い。ぬ。か。く。ゆ。何。ゆ。と。い。く。んと。その。あ。ま。り。ひ。さ。う  
 せ。ら。り。人。ゆ。や。ま。い。く。身。よ。と。り。て。ま。ん。く。す。ゆ。あ。ら。う。人  
 よ。ハ。さ。や。れ。も。あ。り。ゆ。つ。と。て。い。確。ま。し。く。と。と。と。作  
 し。き。り。と。ま。ま。と。あ。り。ゆ。く。と。き。て。い。く。と。ゆ。よ。是。ハ。せ。れ。か  
 し。う。不。念。よ。と。ゆ。く。拙。志。義。ハ。先。年。亡。君。の。内。奸。と  
 あり。心。腹。ま。の。ま。い。も。な。あ。ぐ。身。の。や。と。と。う。り。ん。さ。一  
 ひ。う。あ。て。あ。ま。い。ま。う。ま。ぐ。四。母。の。や。と。う。う。ふ。殺。つ。と  
 公。庭。よ。わ。く。ね。だ。ぬ。い。火。の中。あ。そ。と。と。う。と。と。と。と  
 ひ。と。う。と。と。祿。ら。ひ。と。う。ん。よ。か。ど。う。遠。妻。乃。つ。ゆ。と。某

高名太平記 卷之八



前集  
なぐちあすゆこひさりと漫流一おこみ味こせんか  
ゆんとしてわやくまわらうまめいあやしてまむい切ら  
風情をれて若おのわれとよりおは舞ぬりやこれら  
き死一版とあひいつめ跡よ程あや我り。業よお遠のそ  
善や一六。懸意とあうしてけり。然じやとく  
ふまそんせむ却て邪たかり。なほひあが我一人のあ  
あう秘でゆやしてつまもゆき内一を返さふ極  
一わと。えんもゆるず強もくこと。ちんくく際より  
飛つらと。並ち遠かりひくけりうらうらけりま  
たためへそこさのぬ。義士ころりの門立よ。軍神の  
血まつり。母とわつりも勿神たりと。くくつとからとあ  
臨あんと。くくつとく信を流。やとすそ。並ち遠つとわ

まふれ不彼との。これよの修く極みわり。先回なりて  
ゆくわりの。いさせあんと。門らまこと。並ち遠つゆも  
つれど。何とらあぞ。畜生め。うぬが極一ゆぬよありて。そ  
まがと。引こそ宿り一の系浪人と。波をぶあふ所。お我  
おと。秘とかせ。くろき。み。や。も。も。く。ま。ぬ。と。あ  
切と信を兼。口。の。ひ。と。わ。て。さ。ち。ま。も。く。の。ま。ち。く。あ。い。今  
何とくは。い。じ。と。我もかり。極一味たりぞ。せんまらあ人  
く。と。つ。と。も。く。命。と。さ。び。人。よ。物。お。行。世。い。と。ら。せ。て。  
あ。と。熱。い。せ。ぬ。若。今。の。ま。あ。よ。せ。ゆ。り。て。回。さ。の。ゆ。り。  
ま。な。れ。と。く。い。ま。ま。あ。つ。ら。お。は。さ。る。と。ゆ。で。あ。い。男。大  
あ。よ。い。と。つ。つ。の。さ。あ。く。と。ひ。み。亡。君。乃。ゆ。ま。へ。て。お  
勅。南。の。ゆ。り。れ。死。と。一。邊。よ。ゆ。して。處。命。ま。く。く。つ。あ。



二、三言、卷之、

十一

前集

一、歌をなまじくしつとく。おぼ。味方のみかたうつ。等、同  
せざりん。殺よは。ちんて。我々十死一生の働うる。く  
は。他も。心とわく。世か。ちよりの。指揮。のま。く  
ふ。ち。う。く。く。く。い。

一、みとれ。入。別。ひ。り。き。ゆ。く。深。入。心。を。用。ひ。ゆ。く。深  
り。ゆ。く。え。こ。め。う。れ。あ。ひ。ゆ。く。由。一。心。の。終。よ。う。り。え  
つ。ご。り。あ。ひ。こ。う。上。打。死。ゆ。く。も。義。士。の。殺。う。る。か。次。い  
一。肌。を。ち。か。り。く。後。し。盡。し。清。若。あ。面。乃。す。め。ち。う。る。く。一。  
と。さ。う。さ。ま。い。入。次。身。但。極。切。り。て。忍。忍。う。る。く。い  
と。か。さ。の。は。皮。形。骸。並。よ。及。巾。む。ま。の。中。み。強。折。断。る。  
又。ハ。胃。の。粉。と。は。込。拵。す。の。下。さ。の。わ。く。さ。う。く。一。よ  
う。く。ら。れ。下。も。お。お。こ。さ。う。一。六。具。と。堅。く。合。ひ。は。こ。お。か。さ。う。

一、か。な。り。淋。も。あ。さ。び。づ。さ。み。ゆ。く。尸。お。及。さ。り。あ。あ  
ゆ。れ。あ。く。く。心。ち。が。く。ふ。所。用。さ。な。く。て。ハ。効。ふ。の。そ。み  
失。念。わ。り。と。の。よ。い。  
一、お。お。ろ。し。ハ。締。と。紐。無。く。切。ゆ。く。か。の。く。れ。使。名。と。さ。う  
強。く。皮。形。骸。の。肩。ふ。一。方。と。ぬ。い。付。さ。う。い  
一、あ。す。こ。さ。ま。ゆ。布。う。る。く。い  
一、あ。さ。を。さ。す。ハ。刺。糸。を。う。る。く。ハ。笛。吹。く。お。お。い。は  
か。り。あ。お。あ。く。い。

一、あ。ま。ぐ。う。の。義。士。消。の。終。列。は。無。く。ら。火。の。ま。り。り。終  
団。つ。下。ハ。併。よ。う。せ。う。け。た。う。け。は。あ。も。と。を。お。お。さ。ら。ふ  
ハ。刺。火。土。よ。う。り。の。し。と。お。あ。ま。の。か。の。く。お。お。の。体  
よ。う。ら。せ。う。け。敵。我。強。弱。さ。を。さ。う。ハ。お。お。あ。い。ら。う。く。

一、あ。ま。ぐ。う。の。義。士。消。の。終。列。は。無。く。ら。火。の。ま。り。り。終  
団。つ。下。ハ。併。よ。う。せ。う。け。た。う。け。は。あ。も。と。を。お。お。さ。ら。ふ  
ハ。刺。火。土。よ。う。り。の。し。と。お。あ。ま。の。か。の。く。お。お。の。体  
よ。う。ら。せ。う。け。敵。我。強。弱。さ。を。さ。う。ハ。お。お。あ。い。ら。う。く。

二、三言、卷之、

十一

前集

酒分移しあそび

一 糸返の節進きの大家へおめよのらおつり

をらこみ

一 門下などお教し用と小ツけや 二三世 振るい 他

長尾のいしつ次の見守と存意はお仕廻り

才より大刀洗等乃身。流く常小内振練いゆ

多うつくい。

たしおあ細乃りり面談しP船倉くい

やちりもさふおさおのいさみさちうらひあつるま

乃めあつは。あうら一刻もとやく。大お方(回)るま

とあ人らつさいそさけりお場おある葉もはて

げまこたこの方へありしり。信を果とえつけ。さても

ま子や出とおのぶ(刑)乃りありておあなり。四

く乃りりそ尾よりくゆう。先んおまよいと一礼

し。お人とおつらつらおのこ。おんあも子とおあ

おとはお舞お山およ目とら。善いそりかのくま

か合乃お後もい子くらみよい。それととせんトと目

らを毎ころとと同及し。芝居しても思んゆさ

さかよなさいさるそ人とおつまそりおれ書くとおけ

田乃る書通るりおるハおれりしもお二三日おあ

宿りくおは舞宿なり。高りなり。宿屋とのおく

物久とあう。くおともおの登り。ばうとと大おも

まゆく。おのの義ん。おれりそれぐは。おん

ゆまう。おらお刻おのくよそ途ちるぬい。おん

をこの人のうち母と見せしめて○のこををりはそれごとくけり  
ゆまゆ何れもと背面候よしPのうへ。その方のひ  
とりふりけり。

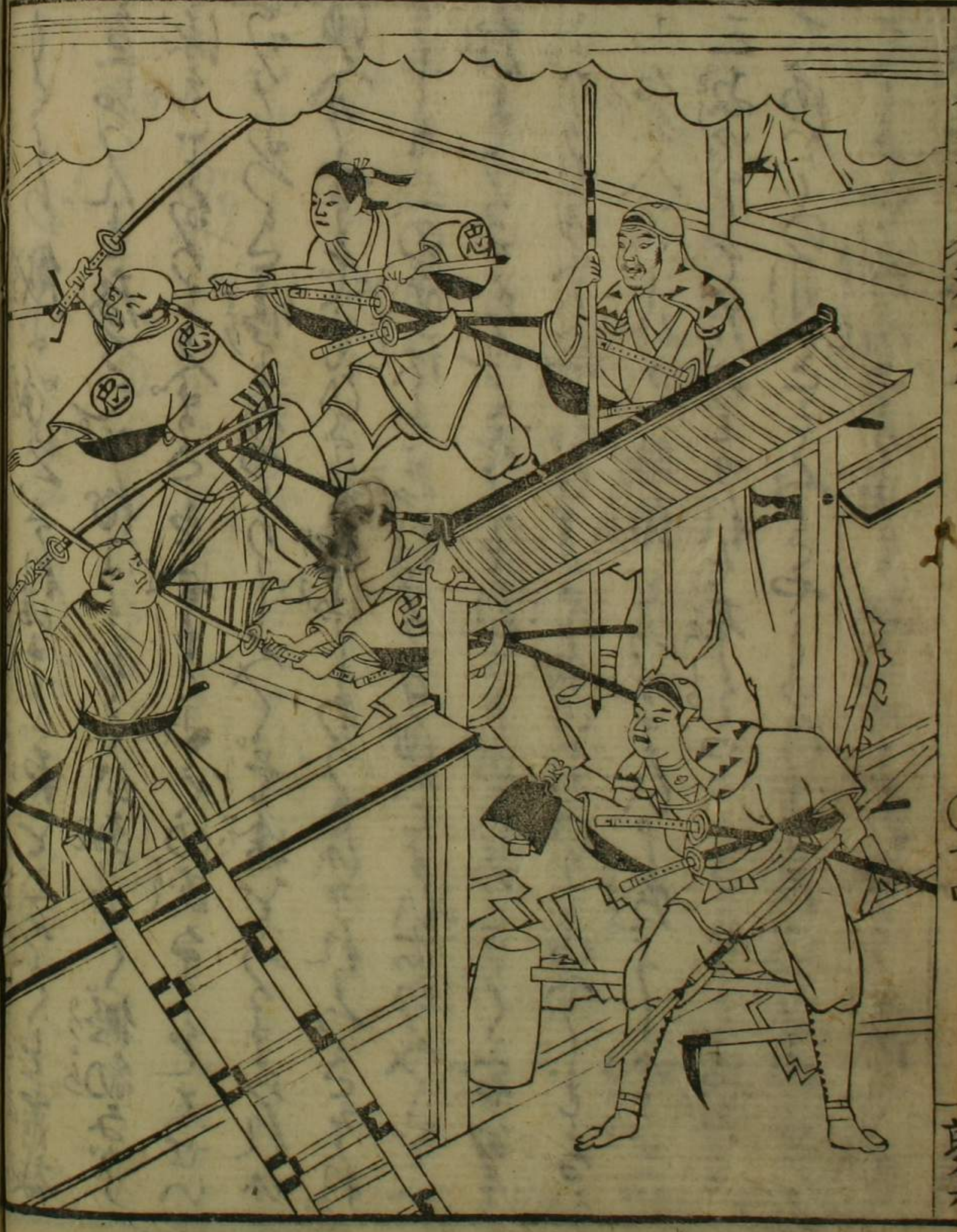
○前途の事 夜討の事

今もせげし。温純を何うととやつら。麴敷をあり  
けりがそのうちもさるふ値けりおとと。みくま浦ととる刻  
ぬんこと商賣でて常に入りあつたり。方の止むたる  
法却して翌日もまたんとかりありあり。つひは念出  
よかりしらん。温純居る方へ風あつてついでに杖く  
りし田舎をのりして去方ふも云々。おきたり。ゆへあり  
て隙とりのふ。南北りりもなれば方高たどりつらども  
申す食ふみく捨たれたし。いくせんといかりあり。ま

りくもり候よ候しんされゆき。夜とこありくと背  
をゆりんとあつこ。さばよつりくはさるべく。修初まぐ  
法をとありしんすこちおととゆくのたすこと入せし  
わらあつこ。情はわづりしく。そ途とあるまられい  
ゆんがすきとひひとととわらうさゆをそれらうとこれ  
へも又の面儀もあらざるゆへこよひたの人々と一  
夜よつるすらんともんをれと。西儀のこととて常あり  
よかりしゆへもかんなぎも女のもゆりゆへ。とさへハ  
ち登入るうゆへ。温純とあつたひりなよう。金子二  
三おでうしてたのちたれた。其まをよとてさうと。法合さ  
てゆかぶの別をこととらとやといひ。よ。又六十八人のかわ  
てとらと。俵山かりまらふと。何されまぐ。その別をこ



高橋大進



高橋大進

高橋大進

しやゆいお初夜ふれどもとあ〜と。うらぶらぶらして  
色んしど。おますりゆひもまづられとも。かたはき色  
さうひえい〜あうすどとかりあよ。寤もあ〜ね門  
の戸がと〜とめくたさやととらめくさうさあめり  
とつあがぶお。いうざらざらと戸とをひいた。み〜まゆらひ  
しりて大戸とあられた。大おう〜あ〜うら。うらとあめ  
あ〜とさすんむりむやく〜と〜のう小亭をもも今〜う  
お〜とゆ〜二ひふと奥さめ形なりと。ぶ〜まゆら  
〜ひ〜ぶらぶらひのう〜か押入強盗のふ〜ひ〜わ〜お  
くと若〜邪乃紙〜と〜く〜あ〜わ〜と〜あ〜く〜れ〜  
紙〜ぶ〜えん〜と〜ま〜く〜用〜な〜て〜さ〜あ〜り〜と〜あ〜く〜小〜あ〜り  
お〜ら〜あ〜ら〜ぞ。ち〜て〜め〜う〜く〜して〜休〜息〜し〜。八〜つ〜の〜ひ〜と〜い〜ら

〜りのお。い〜と〜ま〜さ〜う〜れ〜さ〜て〜人〜殺〜さ〜て〜ま〜ら〜り〜け〜り。浦〜  
ら〜う〜と〜さ〜。み〜ろ〜糸〜乃〜披〜と〜あ〜して〜う〜く〜せ〜あ〜ら〜く〜入〜付〜。玄〜圓  
磨〜ら〜り〜ふ〜と〜さ〜る〜紙〜の〜徳〜う〜れ〜。又〜い〜ら〜の〜強〜と〜面〜す〜ま〜。山  
と〜め〜ら〜ひ〜と〜川〜と〜着〜つ〜お〜洞〜と〜う〜く〜さ〜ら〜ら〜ら〜た〜あ  
三人〜は〜口〜人〜は〜よ〜ら〜み〜あ〜と〜せ〜列〜と〜さ〜ら〜て〜切〜て〜し〜ま〜さ〜ら  
目〜あ〜し〜の〜さ〜あ〜お〜さ〜あ〜を〜あ〜ま〜さ〜さ〜あ〜わ〜り〜て〜果〜腹〜を  
〜し〜ら〜。あ〜と〜ひ〜は〜換〜し〜切〜後〜よ〜か〜う〜さ〜と〜取〜わ〜けて〜ほ〜こ  
あ〜ら〜さ〜さ〜ら〜と〜う〜ら〜〜。あ〜て〜う〜ら〜ん〜二〜張〜す〜ら〜さ〜ら〜あ〜て  
さ〜せ〜踏〜み〜う〜け〜や〜や〜あ〜は〜か〜り〜ひ〜く〜ふ〜あ〜ら〜う〜げ。長門〜の〜と〜あ〜ん  
ま〜は〜斤〜器〜。畠〜田〜。畠〜林〜。八〜田〜。三〜林〜。小〜野〜。九〜肉〜。同〜名〜の〜を〜あ〜つ〜と  
ほ〜ら〜め〜や〜。浦〜の〜み〜う〜ら〜。知〜と〜う〜け。古〜人〜余〜が〜し〜ら〜ん〜し〜  
裏門〜へ〜は〜依〜持〜。中〜村〜。坊〜江〜。庄〜の〜亭〜。畠〜田〜。金〜持〜。古〜田〜。か

ちとろりめ。かの悉と副将や。ふぶと鳴とて大  
 手かちめてのみあたる。危れ失火まじりやとて向  
 き。高嶺より踏みとけ。我うたとて飛びのきりあり。け  
 危ともしくさんくま。門のそえぬきおらるら。同討り  
 うのそみされ入。清井の母なる家。居るとも。亡者の他と  
 し。くんとお。推糸。うへあり。我とおりさんてを  
 討。こせんともくろま。せも。ん。おのりけ。機  
 振り。んは切。く入。そと。味。や。い。か。ら。ま。り  
 かれたぬ。さ。ま。ま。の。け。ら。ち。か。ら。ま。り。陸。の。穂。さ。た。ま  
 第。の。ご。ご。ご。ご。の。ひ。炳。焉。や。と。て。決。心。の。ご。ご。歌。を  
 藤。あ。じ。ま。く。途。ご。う。あ。ま。う。ひ。茶。香。れ。わ。さ。び。う  
 危。と。ふ。く。い。あ。い。の。碎。ぬ。も。も。は。侍。ら。あ。り。ち。お。珠。く  
 名。利。よ。あ。り。れ。く。ま。の。ご。と。を。わ。れ。ぬ。忠。心。と。ま。り  
 物。持。し。る。力。も。力。も。死。あ。ん。ど。胆。も。あ。ら。ぬ。い。ま。を。あ  
 か。も。い。ま。は。節。ま。め。と。二。人。て。引。あ。ひ。ら。び。り。本。を  
 危。が。や。り。て。ま。う。怪。我。と。も。う。も。あ。ま。さ。心。お。そ。忽。ち。あ  
 て。ん。う。つ。お。盗。人。と。の。ま。り。逆。張。あ。つ。く。昨。も。あ  
 り。我。も。よ。も。の。く。用。さ。う。て。つ。じ。の。や。う。か。り。お。と。あ  
 り。も。ら。ま。ま。不。懈。懈。と。ま。り。て。玄。冥。あ。り。ま。れ。入。り。房  
 く。お。い。ら。う。と。も。か。く。指。さ。れ。ぬ。白。昼。お。も。あ。く。は  
 お。う。ら。う。ま。あ。つ。ぐ。ひ。矢。つ。ぎ。さ。や。は。村。の。け。く。さ。く。あ。く  
 知。あ。ら。ま。あ。ひ。ま。く。さ。く。も。ふ。ら。つ。く。逆。張。れ。も。お  
 と。の。の。も。か。う。わ。あ。ま。オ。だ。う。り。れ。男。長。刀。と。な。う  
 さ。の。が。す。ゆ。と。声。と。う。け。ま。く。ら。う。お。切。て。あ。く。と。定。て





秘眉ひまひとつさるるト秘先ひまひとよへんはるるさるれと  
と。わつとつめて外まへあふと。ち林やしんのいづつとつとつと  
てどつ付つらふ屋やがて前まへとつりてさるるさるかすめ家いえ人  
とめあ。首くびの裏うら否いなとふくまらふさるひらるる者  
之こののうし。さそと中ちゆうららるるらと。惣そう勢せい一いつ而にまらるる  
ふららびの時とき成なりわけいさみいさえてるりひらるる

高名太平記 卷之八終

高名太平記

○ 卷之九

忠臣ちゆうしん十じゅう余よ人にん亡な君きみ此こゝ腐くさ不た首くびとと同どうす

大内おほうち浦うらの女むすめ殉じゆん死しととまししじじす

片かた果は長ながああももすすりりてて切き後ごれれす

野の邊の岩い嶽たけ土つち偶ぐうとと造つくりり殉じゆん死しふふくくす

鐵てつ筋しん不ふ老らう老らう七しち君きみととままししひひ切き後ごよよああす

彼かの家いえ末すえ切き後ご刺さ懸けん款くわん末すえ練れんよよんんゆゆららす

妻つま後ごととすすめめららるるててつつととううととああととす

小野編太清の自殺するに九回をげりたり

浦の取回す十余人を居れりあふ念成た  
くしつり

帝城の勅ふりて浦の安立身業むたり

後集十卷右田書京漢方義士皆志海之者也

高名太平記卷之九

○忠臣四十余人の事

今も昔も大なる浦の安立業むすびたり。四十余人  
れものむりしと多き年乃中懐へりて遂に重なる其  
眉もゆら雨化よ即ちもいふはいふをいふは  
そののへる人の悪乃右境へと若之が首とち指  
いふごとくふ付くもあはれうさうしひして色  
歌わくはあさひ人のそのうとを物く。死と磨  
よさくあ。追さうてた。あひかろく。禁會とさ  
らさく山成製出と碎りたり。わりとを戦ひつれ  
るもあとりて。逞兵の移らるるさよあさ  
所詮かくあをむくも。あはひら。あせくはるる

おつりいふそや。只七君乃仇とむらひ春之く首とを  
あふらるる地下の在るよふむけなり。幽魂とすめ  
祭り。悲舞の舞と散りしゆもえんと祭り  
他なり。あつりし白地は舞歌の首とす儀。白盤なり  
列とするを移しりちんと企する。あつりし  
多れ甲と抱て盤ると押人とむらりも辰しえ  
は首とひらう小の廟は送り。移し例と儀ありと  
う肌よもあつりある。白小袖の斤袖と切く。彼首と切つ  
み首補よ入くとと後つみり。中あも傍とく切  
何やひらりく。二三人とあつりびあつり。首小とく  
よ送り。は使りく人よんとめく。と。事難事あり。あ  
めさ合也。命とあつり小折死とあつり。れす。と。は

肩さふひうえ。事乃やうと祭あり。みそを  
を引く。とて。んからととあつり。は。なつり。ふら  
うり。よぶ。と。吹あつり。と。と。つ。け。あ。な。や  
事にはやふもあつり。は。也。央のまわり見ありと。款  
ち。う。う。の。は。と。あ。つ。め。あ。つ。り。も。あ。つ。り  
ま。う。ふ。内。あ。つ。り。中。は。く。る。お。な。ま。ゆ。う。は。な  
笑。ら。ら。あ。つ。り。ふ。牙。と。操。り。て。列。と。そ。わ。ぬ。あ。つ  
首。と。服。あ。つ。り。み。種。の。柄。と。抱。り。さ。あ。つ。り。也。先。和  
乃。表。土。と。あ。つ。り。あ。つ。り。も。あ。つ。り。さ。表。土。と。あ。つ  
う。あ。つ。り。操。り。は。引。り。さ。つ。り。も。あ。つ。り。あ。つ。り。あ。つ  
治。り。あ。つ。り。あ。つ。り。あ。つ。り。あ。つ。り。あ。つ。り。あ。つ  
小。海。よ。眼。と。く。り。あ。つ。り。あ。つ。り。あ。つ。り。あ。つ。り。あ。つ



おぼろしくありしはも。彼らぐま威まやあられん。徳  
してやわりちん。氏や本ゆかたりり。さそく。廟お  
ようた。らして。せつ。つ。り。を。た。ま。と。吾之の首と何  
らひ。三方はと多そ。徳。つ。り。と。大。あ。う。け。と。り。廟。を。よ  
う。め。く。見。よ。の。つ。ひ。く。よ。秘。蔵。わ。り。け。つ。そ。代。の。澤  
と。と。そ。上。う。お。も。の。九。寸。又。分。わ。つ。と。懐。中。より。ぬ  
き。あ。り。極。と。廟。あ。り。よ。ひ。う。て。う。あ。げ。右。之。う。首。り。三  
度。わ。て。そ。の。ち。焼。番。礼。致。し。を。後。は。と。と。み。く。廟。お  
よ。う。た。く。と。と。か。り。初。よ。う。う。

文祿乃多。十一月日。家長。大。西。浦。と。女。と。と。り。め。よ  
く。唯。今。そ。る。美。の。心。廟。ち。よ。あ。の。く。く。る。家。あ。て。ま  
つ。り。心。の。四。十。余。人。を。と。ひ。の。う。一。合。と。徳。を。美。

乃。心。の。う。と。つ。と。喉。夜。彼。陣。中。より。け。つ。り。粉。骨。の  
ち。戦。と。ぬ。え。ん。て。終。よ。素。と。の。と。と。者。之。と。討。れ  
廟。あ。よ。ひ。う。ひ。ま。り。表。あ。ひ。秘。う。く。あ。ひ。ら。う。と。感  
し。七。君。を。美。れ。心。よ。と。あ。り。され。無。懐。と。四。年。  
し。へ。

と。わ。く。く。り。の。ま。り。に。お。り。く。も。一。回。お。平。伏。し。じ  
ら。は。う。つ。け。ま。ど。く。屋。候。し。あ。り。ま。り。屋。を。あ。と。く  
あ。り。て。大。あ。り。ん。く。お。ひ。う。ひ。ま。と。う。お。只。今。ま。て。か。あ  
く。ま。れ。も。ろ。と。も。お。た。着。の。と。と。と。う。け。う。る。家  
の。あ。り。ま。い。ゆ。え。七。君。の。回。懸。り。て。あ。て。南。條。の  
裡。の。ま。と。ひ。あ。と。ん。や。且。書。お。ら。と。は。く。何。と。あ  
て。お。家。れ。あ。り。他。と。ひ。く。ひ。先。君。の。あ。り。い。と。や。と



涼光院

前集



小倉詰乃殆よ。塵とくきり。舟と舟ととせ。見て  
 名とつご。ふ。和。らん。と。出。つ。ふ。り。大。正。續  
 還。ゆ。く。く。と。く。と。く。年。末。の。中。を。と。と。と。  
 せ。も。れ。ん。と。れ。ん。と。れ。ん。と。後。心。の。く。く。膠。漆。世。世。世。  
 乃。弊。り。も。う。こ。ご。ご。と。と。あ。あ。と。と。あ。う。ハ。誰。わ。り。な。  
 方。物。と。と。と。と。と。今。を。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
 い。な。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
 さ。つ。ひ。ま。ご。家。ん。ら。た。あ。の。の。心。月。子。い。ま。ま。ま。  
 見。不。も。し。て。め。と。う。く。小。他。の。心。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
 と。  
 と。

心わたのつと。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
 き。ん。と。  
 と。  
 と。  
 たり。も。  
 人。制。の。心。と。  
 め。み。と。  
 と。  
 と。  
 と。  
 と。  
 と。  
 と。

もろふれ名とかりんた。なほそとてらうとわてせ。も  
小七スズエン吾カミ乃シ悦ユキとつ。一。義サキ公クニと今イマ右ミダ乃シ人ヒト京キョウ乃シこも  
んく。今イマうううひて。アおわど。あはり。は。ん。も。平  
がアおハも。うう。か。と。ま。ま。法ホウ乃シあり。く。一。西サイは。自ジ教キョウと。ゆ  
引ヒキか。さ。た。れて。る。り。そのゆ。と。あ。ひ。く。も。品シん  
トのゆ。く。先マゼ君キミ漬ヅク井イる。凡ナン愚ム直チキは。心ココロを。犯ツキ罪ツミ見ミて。宿ヤク祿ロク  
と。せ。つ。内ウチ侍シを。そ。持モチお。せ。ま。つ。て。臨リン臣シより。く。外ソトの。代イ  
す。く。ハ。美ミお。乃シは。準ノルす。と。天テン皇ミコ乃シ南ミナミす。一。廿ニ日ニチハ。后クシ  
妃ハハと。う。め。侍シ婢ハヒよ。つ。り。迎ムカ合カと。ア。お。お。も。は。殉ムスシ死シ中ナカ  
考カウ一イツて。生シる。う。一。回クワンハ。中ナカ小コ押オシけ。り。ゆ。ん。意イ。お。將マサ。く。お  
乃ノく。た。て。し。ひ。や。く。う。ち。え。く。其シ件ケンの。人ヒト乃ノ位イと  
考カウ一イツ。回クワンハ。考カウ。く。た。へ。ん。も。と。ひ。を。て。へ。は。い。ま。る。お

より。お。人ヒト。家ウチ。祿ロク。ひ。ひ。と。ま。つ。て。張チヤウ。な。風フウ。の。乳ウチ。と。い。ま。  
生シ。く。後キチ。乃シ。あ。ち。と。つ。く。一。世セ。家ウチ。と。か。こ。め。氏ウヂ。と。わ。れ。み。  
天テン。上シヤウ。乃シ。う。め。乃シ。く。み。と。侍シ。せ。と。ま。つ。て。一。回クワン。ハ。一。日ニチ。休キユ。む。  
惟タカシ。人ヒト。良ラウ。臣シ。わ。れ。て。惟タカシ。會カイ。と。つ。く。一。日ニチ。ハ。一。日ニチ。休キユ。む。  
な。あ。な。を。ま。つ。れ。て。と。つ。く。一。日ニチ。ハ。一。日ニチ。休キユ。む。  
お。う。け。り。ら。り。ひ。ま。さ。く。侍シ。さ。り。南ミナミ。の。つ。く。一。日ニチ。ハ。一。日ニチ。休キユ。む。  
ア。お。お。ひ。ま。さ。く。侍シ。さ。り。南ミナミ。の。つ。く。一。日ニチ。ハ。一。日ニチ。休キユ。む。  
悪アク。物モノ。と。して。見ミ。ぬ。女メ。の。心ココロ。と。つ。く。一。日ニチ。ハ。一。日ニチ。休キユ。む。  
お。お。の。心ココロ。と。つ。く。一。日ニチ。ハ。一。日ニチ。休キユ。む。  
て。中ナカ。十シウ。余ヨ。人ヒト。一。回クワン。ハ。一。日ニチ。ハ。一。日ニチ。休キユ。む。  
も。り。ひ。ま。さ。く。侍シ。さ。り。南ミナミ。の。つ。く。一。日ニチ。ハ。一。日ニチ。休キユ。む。  
ま。う。な。く。お。お。ひ。ま。さ。く。侍シ。さ。り。南ミナミ。の。つ。く。一。日ニチ。ハ。一。日ニチ。休キユ。む。

おすもくもく... 命とま... 命とま... 命とま...  
 もついでい... 命とま... 命とま... 命とま...  
 とひ... 命とま... 命とま... 命とま...  
 あふ... 命とま... 命とま... 命とま...  
 あ... 命とま... 命とま... 命とま...  
 ま... 命とま... 命とま... 命とま...  
 と... 命とま... 命とま... 命とま...  
 都... 命とま... 命とま... 命とま...  
 りん... 命とま... 命とま... 命とま...  
 み... 命とま... 命とま... 命とま...  
 と... 命とま... 命とま... 命とま...  
 り... 命とま... 命とま... 命とま...

多くの命とそれ... 命とま... 命とま...  
 て... 命とま... 命とま... 命とま...  
 あ... 命とま... 命とま... 命とま...  
 の... 命とま... 命とま... 命とま...  
 き... 命とま... 命とま... 命とま...  
 死... 命とま... 命とま... 命とま...  
 う... 命とま... 命とま... 命とま...  
 ら... 命とま... 命とま... 命とま...  
 命とま... 命とま... 命とま... 命とま...  
 命とま... 命とま... 命とま... 命とま...  
 命とま... 命とま... 命とま... 命とま...

おぼろぐむ。身とともらざり。わし。いざとひとのよ  
 合夥し。あつたれ。もなる。い。は。徳。い。ま。は。徳。の。あ  
 と。は。う。つ。あ。つ。付。の。あ。ひ。て。は。け。り。す。す。徳。い。ま。は。徳。の。あ  
 ち。あ。ふ。め。い。く。の。あ。は。れ。と。う。づ。い。甲。く。は。一。周。ま。い。さ。だ  
 う。く。進。後。見。んと。抄。と。る。ん。わ。よ。せ。若。り。き。り。肉。小。船。の。あ  
 の。息。同。名。郷。を。渡。つ。し。つ。い。多。人。の。あ。へ。波。多。字。を。あ  
 ま。り。快。一。面。来。り。たり。と。船。七。馬。つ。何。の。や。と。い。ひ。く。ら。さ  
 け。つ。ふ。と。夕。わ。く。り。候。し。つ。さ。幸。ひ。あ。り。め。く。ど。と。幸  
 ち。し。つ。う。と。何。の。あ。ひ。や。そ。え。と。え。け。り。あ。り。あ。り  
 そ。の。な。お。織。物。は。平。茶。湯。も。来。り。あ。り。あ。り。と。い。は。れ。て。宗  
 太。夫。と。何。や。ん。密。候。の。体。あ。り。し。が。船。七。馬。つ。と。ま。す。の。は。ア  
 け。ら。れ。く。り。中。年。あ。り。あ。り。つ。と。ま。ら。ず。と。い。は。れ。し。の

子。ハ。う。ら。た。ら。て。美。あ。ひ。ぬ。今。の。一。日。も。も。や。く。せ。い。と。い。ふ  
 宗。下。は。由。り。ま。ん。さ。ん。さ。ん。よ。ま。ま。と。そ。ま。つ。り。あ。ら。う。く。を  
 勤。真。乃。肉。ふ。切。と。常。也。く。り。は。縁。と。と。り。け。び。さ。び  
 の。憂。を。さ。と。も。り。え。ん。と。な。し。た。あ。ら。う。り。指。馬。り。や。と。さ  
 ぬ。く。う。む。い。お。ひ。と。も。せ。ん。比。御。廟。不。よ。あ。ら。う。く。傳。み。取  
 の。由。り。さ。う。中。く。出。し。と。と。れ。と。か。ら。も。と。し。お。の。れ。の。あ  
 け。ら。れ。と。れ。く。め。も。い。と。も。さ。ん。と。と。う。と。浦。屋。よ。さ。う。ら  
 ま。さ。う。く。く。と。あ。ら。う。は。あ。ら。う。は。あ。ら。う。は。あ。ら。う。は。あ。ら。う。は  
 義。あ。ら。う。の。り。は。い。は。う。び。ち。は。い。は。う。の。り。は。い。は。う。の。り。は  
 後。と。和。し。橋。使。さ。う。み。指。と。は。り。い。は。な。う。と。と。れ  
 くと。和。し。橋。太。夫。の。と。う。ふ。い。さ。み。指。と。は。り。い。は。な。う。の。り。は  
 い。は。い。列。の。り。の。り。と。い。は。れ。し。今。と。あ。ら。う。く。一。日。も。せ。い。れ





うくんと。縁がよそのもゆいんとかくゆをせして殉死  
 のふとれがれ黄泉乃庵よりりて。尸よりけまやに  
 えん後らつ。死に何附もけり事とせんと。りく又  
 子しよふお後いつ。無きとせよ。浦の女方より  
 指當わつてさよう。是又ゆぬまぐ。兵分つて。青將  
 せし。うろ人孫。家長れ。はてし。高橋より夜付し  
 せらすて。終よ。彼人の指揮と。徳は。りりり。新集  
 ま。この。ふ。わ。の。事。よ。ひ。た。の。心。事。よ。付。て。も。花  
 ぬら。う。り。き。さ。ゆ。り。や。と。尸。わ。ひ。て。ひ。ん。孫。ま。よ。ひ。た。ひ  
 ろ。く。も。そ。も。死。に。抱。り。う。ろ。あ。り。ぬ。れ。る。の。の。れ。ぬ  
 場。を。れ。も。遠。背。し。つ。と。根。を。い。ぬ。う。く。も。こ。ゆ。さ。に。さ。こ  
 い。ゆ。り。ん。と。い。え。れ。う。く。尸。を。れ。も。孫。平。よ。せ。ふ。る。い。げ。ぬ  
 て。さ。ら。う。と。死。出。の。首。達。と。祝。尸。えん。と。宗。右。衛。門。を  
 ぬ。ふ。ゆ。さ。う。か。り。わ。う。の。の。く。三。斬。け。り。て。さ。す。え  
 ぬ。先。孫。平。を。衆。も。と。さ。め。さ。う。と。そ。ん。と。う。り。さ。ぬ  
 き。後。り。ん。と。お。ひ。さ。や。う。り。つ。ま。ら。い。尸。と。世。の。刀。と。宗  
 右。衛。門。が。ま。す。ま。と。さ。う。う。を。ゆ。い。ん。尸。と。宗。右。衛。門。と  
 笑。て。編。た。束。つ。と。根。く。わ。い。さ。だ。よ。く。い。は。む。や。と。れ。逃。れ  
 せ。れ。ぐ。と。ゆ。く。と。尸。えん。さ。る。う。と。と。ん。と。さ。く。指。刀  
 を。ぬ。き。孫。平。を。誘。う。首。も。た。ま。う。ど。お。世。へ。う。ら。う。ん  
 宗。右。衛。門。の。首。も。ふ。ら。ら。な。う。何。ゆ。と。う。お。ひ。ひ。ん。さ。め。く  
 泣。て。ぬ。え。う。け。り。と。編。た。束。つ。眞。さ。め。こ。の。宗。右。衛。門。の。よ  
 の。束。縛。の。ゆ。あ。ま。し。い。う。や。命。め。く。い。つ。あ。め。り。ふ。お。く  
 の。山。高。嶽。ゆ。い。と。あ。ら。う。か。お。と。と。宗。右。衛。門。を。さ。す。は。ぬ。も

うくんと。縁がよそのもゆいんとかくゆをせして殉死  
 のふとれがれ黄泉乃庵よりりて。尸よりけまやに  
 えん後らつ。死に何附もけり事とせんと。りく又  
 子しよふお後いつ。無きとせよ。浦の女方より  
 指當わつてさよう。是又ゆぬまぐ。兵分つて。青將  
 せし。うろ人孫。家長れ。はてし。高橋より夜付し  
 せらすて。終よ。彼人の指揮と。徳は。りりり。新集  
 ま。この。ふ。わ。の。事。よ。ひ。た。の。心。事。よ。付。て。も。花  
 ぬら。う。り。き。さ。ゆ。り。や。と。尸。わ。ひ。て。ひ。ん。孫。ま。よ。ひ。た。ひ  
 ろ。く。も。そ。も。死。に。抱。り。う。ろ。あ。り。ぬ。れ。る。の。の。れ。ぬ  
 場。を。れ。も。遠。背。し。つ。と。根。を。い。ぬ。う。く。も。こ。ゆ。さ。に。さ。こ  
 い。ゆ。り。ん。と。い。え。れ。う。く。尸。を。れ。も。孫。平。よ。せ。ふ。る。い。げ。ぬ  
 て。さ。ら。う。と。死。出。の。首。達。と。祝。尸。えん。と。宗。右。衛。門。を  
 ぬ。ふ。ゆ。さ。う。か。り。わ。う。の。の。く。三。斬。け。り。て。さ。す。え  
 ぬ。先。孫。平。を。衆。も。と。さ。め。さ。う。と。そ。ん。と。う。り。さ。ぬ  
 き。後。り。ん。と。お。ひ。さ。や。う。り。つ。ま。ら。い。尸。と。世。の。刀。と。宗  
 右。衛。門。が。ま。す。ま。と。さ。う。う。を。ゆ。い。ん。尸。と。宗。右。衛。門。と  
 笑。て。編。た。束。つ。と。根。く。わ。い。さ。だ。よ。く。い。は。む。や。と。れ。逃。れ  
 せ。れ。ぐ。と。ゆ。く。と。尸。えん。さ。る。う。と。と。ん。と。さ。く。指。刀  
 を。ぬ。き。孫。平。を。誘。う。首。も。た。ま。う。ど。お。世。へ。う。ら。う。ん  
 宗。右。衛。門。の。首。も。ふ。ら。ら。な。う。何。ゆ。と。う。お。ひ。ひ。ん。さ。め。く  
 泣。て。ぬ。え。う。け。り。と。編。た。束。つ。眞。さ。め。こ。の。宗。右。衛。門。の。よ  
 の。束。縛。の。ゆ。あ。ま。し。い。う。や。命。め。く。い。つ。あ。め。り。ふ。お。く  
 の。山。高。嶽。ゆ。い。と。あ。ら。う。か。お。と。と。宗。右。衛。門。を。さ。す。は。ぬ。も





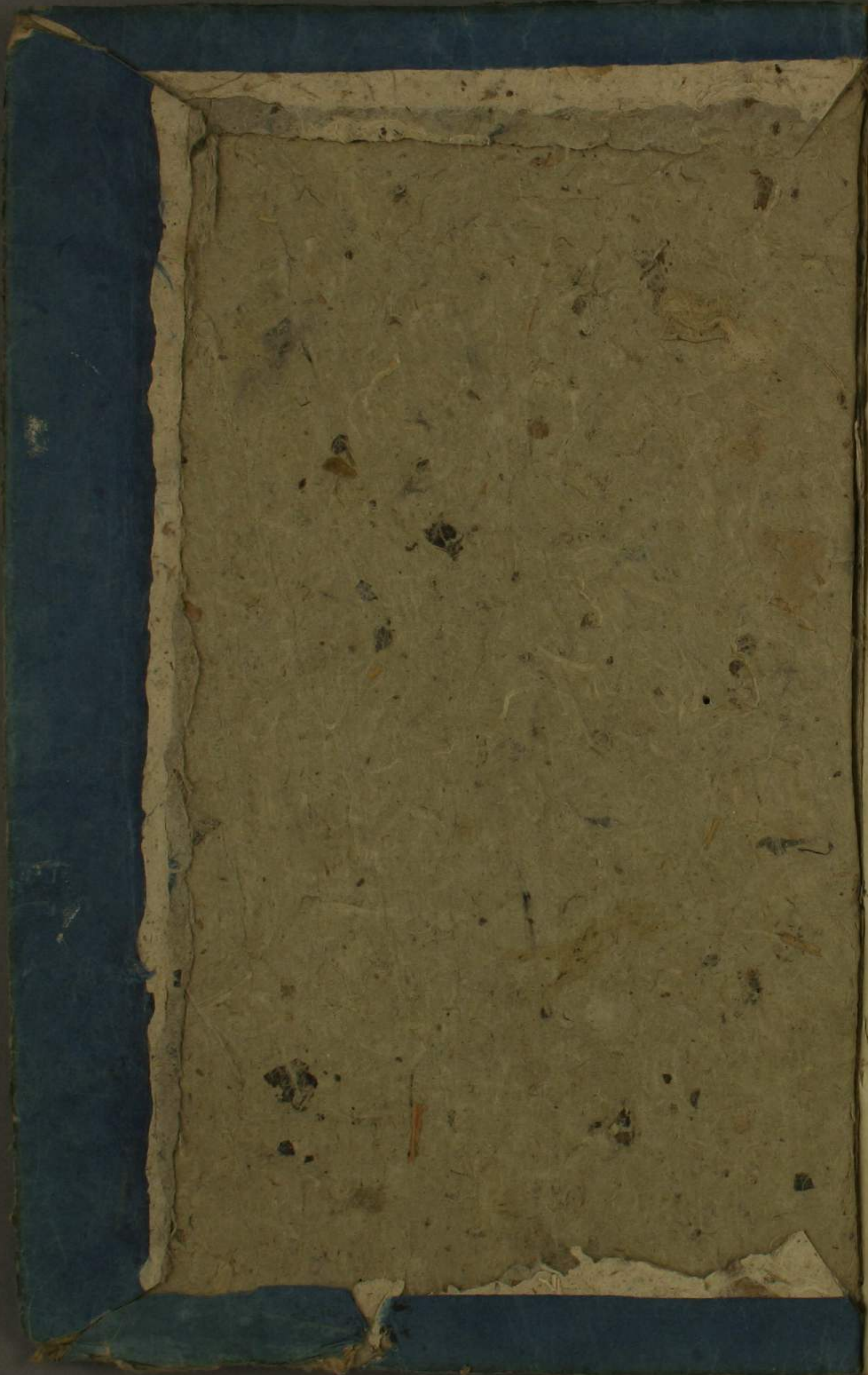




ろくと、もどつら。命を百枚その下して、このら、あは  
 早余人のんくよおのくニあつてお持て、さあ、あ、ら、家  
 くおあ、わ、く、自、教、と、ゆ、う、一、つ、付、く、す、ら、ら、て、の、命、ま、と、ん  
 て、追、復、の、た、と、け、と、も、つ、こ、も、と、も、且、又、お、の、く、は、着、ま、ら、れ、  
 て、お、と、い、う、げ、く、ち、お、あ、ま、の、の、れ、の、あ、ま、お、と、お、さ、て  
 して、一、た、お、と、ま、ら、あ、ん、と、し、わ、く、して、ゆ、よ、ん、う、か、く、ん、れ  
 御、よ、ん、ご、ら、あ、ま、も、お、ま、と、な、く、い、ま、あ、ま、づ、も、は、命、ま  
 つ、ら、く、ま、ん、わ、ら、い、ま、う、と、な、れ、く、の、死、骸、あ、も、お、の、く、二、あ  
 づ、と、ち、ら、く、懐、中、に、を、落、く、は、け、と、そ、の、ら、り、う、死、者  
 し、と、そ、も、え、り、へ、ん、ま、う、せ、お、死、と、つ、う、ご、あ、あ、あ、づ、く、組、目、は  
 何、う、あ、く、死、ら、ら、半、う、ら、り、う、南、く、い、と、こ、由、わ、う、ふ、い  
 も、う、一、再、會、初、一、難、な、れ、と、そ、の、河、助、ま、ま、入、の、あ、ん、と

かね、り、れ、さ、ら、さ、ら、み、う、ら、。たびの、つ、れ、と、お、み、き、う、あ、  
 一、子、力、の、あ、わ、ら、れ、を、ひ、て、お、の、あ、ら、う、と、う、ら、一、色、代、状  
 と、ま、り、う、ら、。浦、の、女、よ、が、う、ら、て、う、く、せ、れ、げ、ら、は、度、忠、戦  
 を、さ、げ、お、ら、ら、と、あ、り、一、は、後、お、曲、事、お、う、さ、う、う、う、ら、  
 色、の、ら、ら、お、言、の、ま、ま、と、い、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、  
 あ、う、う、う、う、う、う、切、わり、て、賞、せ、う、ら、時、の、お、勅、と、さ、わ、り、あ、  
 徳、せ、さ、れ、て、恩、お、れ、れ、と、う、う、う、う、又、あり、浦、の、女、と、う、く、先  
 甲、十、余、人、向、後、帝、お、に、ま、ら、ら、の、の、り、。赫、あ、を、一、あ、つ、め、洛、中、と  
 お、の、後、と、う、一、賞、の、お、よ、う、り、て、お、ら、ら、ん、れ、あ、る、ま、ま、の、深、田、の、ハ  
 お、ら、く、ま、と、あ、あ、う、と、時、の、外、記、史、仲、系、の、師、賢、勅、と、う  
 け、く、じ、う、う、れ、う、一、兵、隊、う、一、族、と、う、り、。教、色、の、情、よ、ん、と  
 と、ん、て、徳、家、よ、あ、づ、の、あ、り、い、く、あ、う、う、ひ、ひ、や、一、息、も





書目録  
一 日本書紀  
二 日本書紀  
三 日本書紀  
四 日本書紀  
五 日本書紀  
六 日本書紀  
七 日本書紀  
八 日本書紀  
九 日本書紀  
十 日本書紀  
十一 日本書紀  
十二 日本書紀  
十三 日本書紀  
十四 日本書紀  
十五 日本書紀  
十六 日本書紀  
十七 日本書紀  
十八 日本書紀  
十九 日本書紀  
二十 日本書紀  
二十一 日本書紀  
二十二 日本書紀  
二十三 日本書紀  
二十四 日本書紀  
二十五 日本書紀  
二十六 日本書紀  
二十七 日本書紀  
二十八 日本書紀  
二十九 日本書紀  
三十 日本書紀  
三十一 日本書紀  
三十二 日本書紀  
三十三 日本書紀  
三十四 日本書紀  
三十五 日本書紀  
三十六 日本書紀  
三十七 日本書紀  
三十八 日本書紀  
三十九 日本書紀  
四十 日本書紀

日本書紀  
日本書紀  
日本書紀  
日本書紀  
日本書紀



